

Vol. 1  
VISUAL BOOK

『機動戦士Zガンダム』公式外伝

# 刻に抗いし者

ADVANCE OF Z  
THE TRAITOR  
THE DESTINY  
ビジュアルブック



ADVANCE OF Z  
THE TRAITOR  
VISUAL BOOK Vol. 1



9784048704571

ISBN978-4-04-870457-1  
C0076 ¥780E



発行●アスキー・メディアワークス

定価 本体 **780円**

※消費税が別に加算されます



1920076007804

刻に叛く者  
ADVANCE OF Z  
THE TRAITOR  
TO DESTINY  
VISUAL BOOK Vol. 1





著

# 今野敏

A・O・Zの金字塔

「ティターニズの旗のもとに」  
文庫版好評発売中!!

およそ6年に渡り電撃ホビーマガジンで連載された「ADVANCE OF Z  
ティターニズの旗のもとに」の文庫が好評発売中!! 警察小説の雄今野敏に  
よる。ガンダム世界を舞台にした本格的戦記・法廷小説が手ごころなサイズ&  
価格になった。人生のバイブルとして、常にカバンの中に入れておこう。



ADVANCE OF Z  
ティターニズの旗のもとに(上)(下)

メディアワークス文庫 / 各定価・680円  
発行：株式会社メディアワークス  
発売：株式会社角川グループパブリッシング  
※各巻には作者のコメントが収録されています。

苛烈な戦場と軍事法廷。  
青年・特校の二つの戦い!  
連戦連勝軍の起る時、エリアルド・リクターは、全艦から奪われたティターニズに配属された。新艦長としてそのマストの頂上へ、雄々なるシランヤを掲げ、船り進め、パイロットとして成長していく。だが、維持にも「ダリブス戦役」を闘い抜いたリクターを持っていたのは、軍事裁判という新たな戦いだった……  
法廷官コラッド・モリスはエリアルドの冷酷な人となり、彼の能力を証明するため、エリアルドのかつての仲間を差し求めた。

カバリーイラスト  
天神英貴

# 刻に抗いし者

『機動戦士Zガンダム』公式外伝  
ときとあらがひしもの

ADVANCE OF Z  
ビジュアルブック  
TO DESTINY



表紙 機 画 エルクRAFT  
CG制作 RED CRAB  
協力制作 空山竜司 ジム改[ケラウノス所属機]  
Takay04 ハイザック[ケラウノス所属機]  
人音 猛 ベースジャール

## CONTENTS

### スペシャルCG

- 02 第0話
- 08 第1話
- 12 第2話
- 16 第3話
- 30 第4話 I
- 32 第4話 II
- 56 第5話
- 62 第6話

### 設定画集

- 10 キャラクター
- 18 ジム改[ケラウノス所属機]
- 20 ジム改[ワグテイル]
- 22 ハイザック[ケラウノス所属機]
- 23 ハイザック[アイリス]
- 24 ジム・キャンノII[ルシアン・バント専用機]
- 26 ケラウノス
- 28 ハイザック[ヴァナルガンド]

### モデリング

- 34 ジム改[ケラウノス所属機]:1 100スケール
- 38 ハイザック[ケラウノス所属機]:1 100スケール
- 40 ハイザック[アイリス]:1 100スケール
- 42 ジム・キャンノII[ルシアン・バント専用機]:1 100スケール
- 46 ジム・クワエル:1 100スケール
- 50 ザクアフリッパー:1 144スケール

### コラム

- 04 WORLD VIEW ON THE  
UNIVERSAL CENTURY0087
- 06 「A.O.Z.」とは何なのか?
- 19 地球連邦軍主力MSの系譜
- 54 サブフライトシステムの系譜

### etc

- 14 あらすじ
- 55 神野淳一インタビュー
- 58 電撃ホビーマガジン付録「ジム改[ワグテイル]」解説
- 64 索引

ヴァン達が岩山の麓を出発し、一時間かかき、険平地から再び山を出た。

三人は砂と塵の混じった道を無言で進んでいく。話す体力も惜しい。砂道に足を踏み入れてから三日。まだ道のりの半分も来ていないが、砂道の環境は予想以上に三人の体力を削っていた。夜間に移動すれば消耗も少ないはずと思ったのが甘かった。持つてきた水は一人当たり十リットル。食料も量を持つてきたつもりだったが、既に半分飲んでしまった。懐胎の宛てなどあるでない。節約しても砂漠を越える前に干からびてしまうだろう。死なないためには水を探す必要があるが、探せばそれだけ時間のロスにもなる。それでも



## 第零話「少年達の一年戦争」より

上九年四月。アーネストはヴァンとダニカを連れ、ジオン公国軍に占領されたキャリフォルニアベースを抜け出した。3人は地球連邦軍支配地であるメキシコ方面を目指し、砂漠越えに踏み切る……。

どうにかしなければならぬ。

気候の穏やかな海沿いではなく、砂漠を越えるルートを選んだのはアーネストだった。彼は今、責任を感じている。ジオン公国軍は半宙での作戦を前進にしたのだ。しかも地上戦の経験はない。だから予断をぬいたら、ルガが発生しそうな砂漠より、交差網が発達した海岸沿いの地帯を選ばざるを得ない。そう考えた。そしてその程度の浅い考えで、二人を危険に晒していることが分かった。アーネストは激昂。地球連邦軍の士気学校に入らなかつたのだ。名門と呼ばれる軍人一家の嫡子としては当然の進路だったし、その為には自分なりの勉強もしていた。砂漠戦は、その勉強で得た知識を動員しての進路だったが、机上の空論は全く通った。

アーネストはダニカとヴァンを振り返る。二人とも辛そうだ。アーネストはダニカとヴァンを尻遣い、歩調を合わせて歩く。彼らはまだ二蔵、体力的にも精神的にも自分に及ぶべくもない。自分の選択は正しかったのだろうか。もう引き返せない。答えも見えない。だからこそ自分がしつかりしなければならぬ。自分はもうすぐ一七歳。公民権を有する大人になる。大人がしつかりしなければ、その程度も自分に言い聞かせる。

「サボテンが見つかつたら、実を採ろう。美味しいんだぞ」  
アーネストは二人を元気づけようとして言った。サボテンの家はボイスカワの時に食べたことがあつた。葉からでも水を割れ出来るし、実なら喉も潤ませる。途中で倒れるにせよ一日でも長く、一歩でも先に進みたかつた。

「どうでもいい。食べてみたいんだ」  
ヴァンはアーネストの言葉に返答を作つてみせた。一方、ダニカは表情を歪ませ、無言だった。実の妹ながらアーネストにはダニカがよく分からない。アキと今日いつもと違うようだ。ダニカは機かたに表情を凝らせる。足を止めた。

「どうした、ダニカ？」

アーネストが訊く。ヴァンも立ち止まり、首を左右に振って周囲を窺つた。そしてアーネストも真逆に向つた。足下から僅かだが震えが伝わつてきている。重い木箱を振り上げて杭を打ち込むような、鈍い震動だ。ダニカが叫んだ。

「何か来る」

「アーネストはジオン公国軍の占領地域である北方に目を向けた。夜の闇と星々、そして地球との境界線上に人工の跡が見えた。それも僅かな。中でも三人の目を引いたのは地平線の少し上にある、明度の高い赤点だった。『モビルスーツか』」

ジオン公国軍がキリリン・メルニア・ベイスに襲撃した時、初めて三人はMSザクIIを見

た。身長一七メートルの大型機動兵器は純粋に戦術的で、最初の恐怖を抱かせる代物だった。キリリンアサギを始めた。世界中に巨人の物影があるのと同じ時が来た。アーネストは慌てて身を隠す場所を探し、見えた岩場を見つけた。

「あつちだー」

アーネストが走り出すと残る二人も必死で彼についていき、どうにか岩に身を潜めた。MSは警戒するそぶりもなく、まっすぐ進んでいる。MSの駆動音を身体全体で感じる距離になるとMSの周囲にあった煙きの正体がホバークラフト三機に分かった。

# UNIVERSAL CENTURY 0087

## 『A.O.Z 刻に抗いし者』の舞台となるU.C.0087年の世界背景

「アドバンス・オブ・Z」は、『機動戦士Zガンダム』の外伝作品であり、そのストーリーは「Z」の世界設定を基に構築されている。従って、物語をより深く理解し楽しむためには宇宙世紀(Universal Century)の歴史、とりわけ一年戦争からグリプス戦役までの流れを理解しておきたい。ここでは簡単な宇宙世紀の成り立ちと、グリプス戦役までの戦争の歴史をキーワードとともに解説したい。

# U.C.0001

## 宇宙世紀の開闢 宇宙移民政策が生み出した 新たな格差

旧世紀末、増え過ぎた人類はさまざまな資源問題、環境問題に直面し、衰退の道を歩もうとしていた。各国家はこの全人類の問題を解決するべく宇宙への移民政策に着手。その推進機関として地球連邦政府を樹立させる。地球連邦の下に制令された人類は月面及びスペースコロニーへの移住を開始。これと共に西暦は「宇宙世紀(Universal Century) II U.C.0001」へと改められ、人類は新たな時代を迎えることになったのである。

しかし一つの問題の解決は新たな問題を生み出す。基盤であった地球圏統一を果した地球連邦政府について、再度の分断だけは避けたい事柄である。分断の機を絶えずに警戒する連邦政府は、宇宙移民を厳しく管理し、その自治権も極度に制限したものである。加えて初期宇宙移民の生活が常に水と腐り合わせの過酷なものであったこと、地球圏には「地球に残る特権階級」と「宇宙に追い出された寒民」という新たな格差構造が生み出されたのだ。

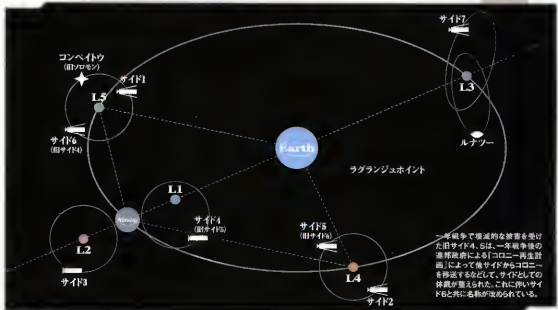
### 地球連邦政府

宇宙移民政策を推進するために旧世紀から傾倒し続ける国家主義や宗教対立を強固に拒みつつ、その内部に多くの問題の種を育むことになった。テロリストによる凶悪事件は連邦分断への不安を煽り、分裂主義者や宇宙移民への弾圧体制を助長する結果となった。



### スペースコロニー

地球と月の間の重力特長点に浮かぶ人口集塊地。河川などの施設物を認めらることでその内部に高度な力を発生させ、その内部に人々が生活している。各衛星のコロニー群は「サイド」という行政単位で区分けされ、U.C.0070年代にはサイド1〜サイド7が存在している。



# U.C.0079

一年戦争の勃発  
地球連邦軍 VS. ジオン公国軍

こうした情勢の中、地球から最も離れたスペースコロニー一帯であるサイド3は、ジオン公国を名乗り、独立を求めて地球連邦軍と内戦を布告する。連邦兵器とレールガンによる牽制を無効化するミノフスキー粒子と大型機動兵器「モビルスーツ」(以下、MS)を主要投入したジオン軍は、緒戦で連邦軍に圧勝的勝利を収め、地球へと進軍の開始。一時は地球上の半分近くまでの勢力下に収めるに至った。

しかし、やがて連邦軍はMSの開発に成功。その国力を涵養した物量作戦で一大反攻作戦に臨み、ソロモニア・アバオ・クワの防衛戦を突破してついにジオン公国に勝利を収めたのである。なおこの戦争はU.C.0079年のおよそ一年間に亘って行われたことから「一年戦争」とは呼ばれるようになった。



ジオン・ダイクンが提議した「宇宙軍連合」成立案は、即断なく分り合えるニュータイプへと進化し得る」とする思想、後にザビ家によって「優良種たる宇宙移民が地球圏を管理運営すべき」という国民思想へとすり替えられた。



新型MSを搭載した試験機「モビルスーツ」はサイド7への寄港時にジオン軍からの襲撃を受け、流石を逃れて私戦することになり、中でも現地徴用の少年アムロ・レイが乗り込んだ「RX-78-2 ガンダム」は、伝説的な活躍を見せた。



スペースコロニーを質量兵器として地球に落下させるという、ジオン軍が行った未曾有の作戦。その威力はオーストラリア大陸の約16%を消滅させ、2次被害を含めれば何億人もの犠牲者を出し、地球の大地と人々の心に刻みつけられた。



ミノフスキー粒子散布下での非対称戦闘を考慮して開発された巨大人型兵器。新たな主力兵器として各戦場に投入された。

# U.C.0083

デラース紛争  
混迷する戦後の情勢

一年戦争の終結から3年の月日が過ぎたU.C.0083年。デラース・フリーと名乗るジオン公国軍残党一派は、オーストラリア・トリントン基地から核弾頭を搭載した試作MSを強襲。この核兵器をもつてコンペイトウ(旧「ソロモン」)における連邦宇宙軍艦隊を襲撃。連邦艦隊に多大な被害を与え、さらにデラース艦隊は移住中のスペースコロニーを強襲し、コロニー清と作戦を実行する。防衛にあたった試作機ガンダムの活躍もあって、連邦本部への直撃は免れたが、コロニーは北米・鋭意被害に遭害。地球圏に深刻な被害をもたらした。

この事件の後、「反連邦分子」は武力をもって排除すべしと主張する強硬右派が連邦政府内にもたけに勢力を強め、地球連邦軍内にジオン軍残党の摘発を主な任務とする特殊部隊「ティターンズ」が結成される。その後、ティターンズはエリート部隊として連邦軍内の権勢を拡大し、やがて軍閥としての性格を濃くしていくことになる。



エギーユ・デラーズは後継する旧ジオン公国軍大佐白河盛隆を1星の肩作戦を授けられた。作戦中にニュー・カウハの中庭の貴族邸に侵入し、その遺志は部下であるアナヘル・ガトー少佐に託され、星の肩作戦は完成される。



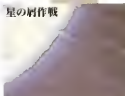
宇宙への帰還を望まなかったジオン軍の残部部隊、地球に残った彼らは地球連邦に抵抗を続けるケリラ部隊と化し、敵対の時を過ごしていた。

## 暴走するティターンズ 内圧を高める宇宙移民の不満

地球至上主義を掲げ、連邦軍内で一大勢力として権勢を拡大したティターンズは、自治権の拡大を求める宇宙移民(スペースノイド)に対し、厳しい弾圧を開始していた。そしてU.C.0085年、その住民が反地球連邦政府デモを決行したサイド130パンチに対し、ティターンズの一部隊は毒ガスを注入する暴挙に出る。1500万人もの住民を犠牲としたこの作戦が契機となり、連邦軍内外の有志による反地球連邦組織「エウーゴ」が結成される。ティターンズ、エウーゴ、そして暗黒宙域で潜伏するジオン軍残党…それぞれの思惑が絡み合い、地球圏は再び混迷の時代へと突入しようとしていたのである。

### 星の肩作戦

デラース・フリーが台頭し、敵対派を擁護する試作機の海軍から、新機軸「コロニー」派としての一連の作戦。最終的な名目として「デラース紛争」とも呼ばれる。なおこの紛争の結果であるコロニー落着は「コロニー移送中の事故」として一般に対しては隠蔽された。



『A.O.Z.』とは何なのか?

## ティターンズの旗のもとに

ADVANCE OF Z

サンライズ公認の『Zガンダム サイドストーリー

別に試みし者」の前作にあたる『ADVANCE OF Z ティターンズの旗のもとに』は、機動雑誌「電撃ホビーマガジン」の誌上企画として、サンライズ公認の下、2002年に連載が開始された。描かれるのは、機動戦士Zガンダム「の舞台となったグリプス戦役」の時代、新型兵器の評価試験を行うティターンズ・テスト・チームに配属された主人公・エリアルが、数々の試作兵器と共に時代の動乱に巻き込まれて行く。



★2002年6月2007年11月までの連載は、月刊No.1人気ホビーマガジン電撃ホビーマガジンと共同で多くの立体作例の誌面で発表された

RX-124  
ガンダムTR-6  
(ウインドウォークEX)

ティターンズ側から描かれる  
もう一つのグリプス戦役

『A.O.Z.』のストーリーを執筆するのは小説家・今野敏。TVドラマ『ハンショウー神楽安清伝』の原作として知られる「安清伝」シリーズなど、数多くのヒット作を持つ人気作家である。グリプス戦役中の戦争物語と、主人公が戦争犯罪人として扱われる戦後の法廷劇を連綿月ごとに交互に描くという画期的な構成を、圧倒的筆勢で描いて見せた。



「ティターンズの旗のもとに  
ADVANCE OF Z」  
(上)(下)

メディアワークス文庫  
各620円(税込)  
発売中



## バンダイからプラモデル&amp;完成品で商品化!

連載の人気に後押しを受け、バンダイからのプラモデル化が実現! さらに完成品トイでも商品が発売された。また「GGGENERATION」や「ガンダムウォー」といった人気ゲームシリーズにも参戦。ガンダムファンの間の認知度を高める結果となった。



RX-124-1  
ガンダムTR-1  
「ヘイズル改」



HGUCガンダムTR-1  
「ヘイズル改」  
価格 1,365円(税込)



HGUCギャブランTR-5  
「フライール」  
価格 2,520円(税込)



MOBILE SUIT IN ACTION!  
ガンダムTR-1「ヘイズル」  
価格 2,520円(税込)



HGUCガンダムTR-1「アドバンス・ヘイズル」  
価格 1,680円(税込)

そして『A.O.Z』待望の第2弾がついに始動!

# 刻に抗いし者

## ADVANCE OF Z

「A.O.Z」の第2弾企画となる『ADVANCE OF Z 刻に就く者』が『電撃ホビーマガジン』誌上で連載を開始した。今回も『ガンダム』と同時代を舞台とし、サンライズの全面バックアップの下、オリジナルストーリーが繰り広げられる。早くも付録キットとして立体が実現するなど、前作の好評を受けて好調なスタートダッシュを見せる本企画。物語が本格的に動き出すこれからの展開にも注目されたい。

ダイジェストフォトストーリー&  
型作例で大ボリューム連載中!!



## 時代に引き裂かれた 青年たちの物語

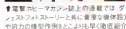
ストーリーは神野源一が担当。今度も「Zガンダム」と同じ時代を舞台とし、もう一つのグリプス戦役が描かれる。ティターンズに属し、ゲリウ部隊に身を寄せることとなった連邦軍のパイロット候補生・ヴァンと、ティターンズに配属され、ヴァンを追う立場となつた兄貴分のアーネスト。時代に引き裂かれた二人が銃口を向け合うことは避けられないのか――？



小説本編はGUNDAM.INFOをチェック!

ダイジェストでない小説本編はサンライズが運営する公式ポータルサイト「GUNDAM.INFO」に掲載され、無料で読むことができます。読むには「Crochet」というWebブラウザ用プラグインが必要だが、サイト上の案内に従えば問題なく無料でダウンロードできるぞ。毎月25日更新!

<http://www.gundam.info/>



RGM-79C ジム改[ワグテイル]

山間の村に激しい炎が上がっていた。

低い雲が降り流して赤く染まるほどの赤火だ。

しかし消火活動が行われる気配は一切ない。何故ならこの村は行政上存在しないからである。ここは貧しい地球の不法居住者と一年戦争で難民となった宇宙移民者が築いた開拓村だった。最初は戦火から逃れるための仮の住まいだった。が、ほどなく彼らは生き残るためにこの地の開拓を決心し、灌漑用水を引き、風力発電の風車を設置し、森を切り開いて家を建てた。それら全てが住民連の血と汗で成し遂げた成果だった。戦争が終わっても彼らはこの地を第二の故郷とすることも決めた。その後の道のりも決して平坦なものではなく、干ばつやハリケーンなどの自然災害もあり、一昨年にはコロニーの落着き事故までもが村を襲った。しかし村人はそれらを乗り越え、今年は大りの季節を祝った。

ただというのに疑き上げた村と開墾した田畑

## 第一話「炎は動き始める」より

地球連邦軍の実験部隊「デインズ」

燃える隊員のみを結果として作りだしたスリー・セクターの力で地球に不法居住する者を根絶し、地球を統一するつもりだ。今日もまた、デインズ隊員と不法居住者たちによって燃え広がった――

はな、炎に包まれたつある。

その現況をもちたしたのは、誰の黒い巨人  
ジム・クワエル、ティターンズ軍用の高  
性能MSだ。ジム・クワエルは村人達のささ  
やかな抵抗を一撃で粉砕し、火炎放射器で村  
を焼き払った。高層に人が残っているとい  
まいとティターンズには関係ない。公式には  
地球に不法居住者はいないことになっている。  
だから不法居住者には全ての人が犠牲になり  
い。

村人達は運々の体でMSと炎から逃れ、村  
の外へと走る。しかしそこには銃を手にした  
黒い制服の男達が待ちかまえていた。黒い制  
服の男達は老若男女の区別なく村人達を銃床  
で殴り、手錠を掛け、装甲車に押し込む。テ  
ィターンズは彼らを捕らえると手由に強制送  
還する。行き先はベースコロニーではない。  
労働力が常時不足しているアステロイドベル  
トや火星、または遠く木星まで送る。生活  
環境は人間が住む場所とは思えないほど悪  
で宇宙開発の最前線では事故死は日常的な出  
来事だ。送られるは二度と地球を望むことは  
ない。

装甲車の中で女と男はすり抜け、男は男  
は銃聲に打ち拉がれる。炎に奪かれた肉體や  
知人を思い、涙する。これが人間のすること  
かと怒り、憎しみを覚える。救いはないかと  
思われた。

しかしヒムライルのドライブ音と激し  
い爆音が響いてきて、状況は一変した。装甲  
車の外で何が起きているのか村人達に分かる  
はずがなく、ただひたすら恐怖を感じるだけ  
だ。銃撃の音はすぐに聞こえなくなり、静寂  
が静寂の終わりを告げる。

そして彼らに救いの手が差し伸べられた。

「遅かった」

二元オス公国軍所属フォルカー・メルクス  
少佐は今更亡ニターを獲い尽くすの中で  
嘆いた。

機づの命がこの炎に飲まれただろう。十や

二十では済まないはずだ。この悲劇を生んだ  
ジム・クワエルを愛しても村は元の姿に戻  
らない。彼が駆る冬前迷彩のバイザック  
は炎に照らし出され、怒気を湛らせたように  
赤く染まった。

「ティターンズめ」

その言葉にすると一年戦争の時に失った右  
足が痛んだ。かつての自分自身をティター  
ズは思い出させたからだ。また、だからこそ  
彼はティターンズを許す訳にはいかない。

「隊長、無事に村人達を解放しました。こ  
ちの地上部隊はすぐ到着するようです」  
ヘルメットの奥から聞こえてきた聞き慣れ  
た声にメルクス少佐は微かに表情を緩めた。

「だが逃がらないとな。一隊部隊の増援がない  
とも限らん」

メルクス少佐はバイザックを走らせ  
村の外で待機機と合流した。機は中距離  
支援型MS ジム・キャノンII。テラ  
紛争で実戦投入され、高い評価を得た機体  
「制圧は順調に進んでいます」

MSの足元を見るか顔の上の窓を覗んだ  
ティターンズの兵士達が銃を突きつけられ  
装甲車の前に並ばせられて

「それを見送るならメルクス少佐は望んだ  
「ルシアン……やはりやるしかないな」



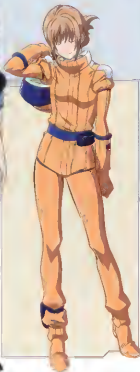
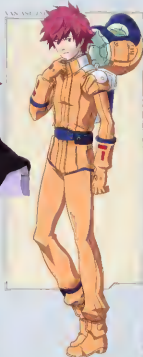
# CHARACTERS

## VAN ASILIAINO

### ヴァン・アシリアイノ

地球連邦軍の士官学校に通う士官候補生。性格は穏やかで好戦的な面はない。士官学校に入校したのは、金銭面や生活面など様々な事情による父は戦場カメラマンだったが、テラース紛争時に死亡し、家族や親戚と呼べる人物はいない。開家のアーネストとダニカとは、兄弟のような仲。30/1ンチ事件の映像データを手に入ってしまったことにより、ティターンズから逃われることに。18歳(0085年時)

所属・ケラウノス



### ダニカ・マクガイア

ヴァンと同じく、地球連邦軍の士官学校に通う士官候補生。同じ年のヴァンには姉のような感覚で世話を焼くが、一方で実兄のアーネストとは距離を感じている。沈着冷静であり、感情を表に出さず、人から理解されづらい面がある。努力家で負けず嫌いな。料理は苦手。ヴァンをティターンズから救うため、自身のパイロットとしての夢を条件にゼロ組への協力を仰ぐ。18歳(0085年時)

所属・ケラウノス



## DANICA McGUIRE

Design 中島利洋

「刻に抗いし者」では、主人公・ヴァンとアーネスト、ダニカのマクガイア兄妹の3人が物語りの主軸となる。そこに強化人間のロスヴァイセが加わり、アーネストやヴァンの心に波紋を起こすのである。ここではモビルスーツとともに「刻に抗いし者」を構成する重要なファクター、キャラクターの設定を掲載しよう。

## ERNEST McGUIRE



### アーネスト・マクガイア

ヴァンとダニカが通う士官学校で教官助手を務める。カリフォルニアで古くから続く名門軍人家系の長男。後に自らの正義を貫くため、ティターンズへ入隊。幼少期から文武両道に長け、友人からの信頼も厚い。ヴァンを兄の弟のように可愛がり、何かと面倒を見る。ヴァンとダニカの過激については、詳細を知らされていない。なんとかして二人を連れ戻したいと考えている。23歳（0085年時）。

所属：ティターンズ



### ロスヴァイセ

地球連邦軍のNT研究所で調整された強化人間の少女。十代半ばの幼さながら、MSパイロットとしての技量はアーネストらに遠く。ただし、感情レベルが期待値に達しておらず、また感情障害を持つため、研究所内では「未完成品」と呼ばれていた。ティターンズへ配属され、アーネストの同僚となる。感情障害とは別に、人とコミュニケーションを取ることが苦手。アーネストに特別な感情を持つ。

所属：ティターンズ



## ROSSWEISSE

## 第二話「まだ戦争じゃない」より

重要機密の入った記録媒体奪還のため、  
ティターンズのMS小隊にテロリスト追撃の命が下される。  
ヴァンとダニカを乗せて逃げるテロ組織の母艦[ケラウノス]に、  
夜陰に紛れて黒い巨人たちが襲い掛かる……。



CG制作: RED CRAB  
機密製作: 岩崎(ジム・クウエル)  
近衛巧巳(ザク・フリッパー)  
入首猛(ベース・ジャバー)  
撮影: エルクラフト

「ヒンカビー少尉、異状はないか？」  
「機影は見えないなあ。機体も良好です。全天候モニターはいいてすわ。いやあ良かつた。」  
ヒンカビー少尉の屋外を応答にライネス大尉は通信器を握りかかした。  
「今はまだ、眠んでいるぞ。」  
「済みませんねえ。船体のリニアシートが壊れて離れて。」  
ヒンカビー少尉は正視した。彼の機体を離せたベイス・ジャバーを振り返り、ライネス大尉は唇を歪め、小さく口笛を吹いた。ヒンカビー少尉の機体は旧オランダ軍艦のサブIIの特長派タイプ、独行機だ。今回、リニアシート化、再武装化の変更が行われたサブIIは旧世代のMSだが、偵察機用の電子

機材は装備した。そのためにMSは近代化改修するだけの価値がある。もともと技術的には境界があるから、現在は先方からハイザックの偵察型を隠しているという話だった。  
「オレ少尉も変わりないか？」  
「はい。機体は好調です。」  
オレ少尉機を離せたベイス・ジャバーはライネス大尉機より先行している。全天候モニターに映るオレ少尉のジム・クワールを見て、ライネス大尉は口をにらんだ。  
〇〇八五年現在、タイタニスはム・カスターとベイスにシム・クワールを主力機としていた。ハイザックは整備性、操作性において優秀な機体だが、先行量産型の配備から一歩遅った今もチーム長級の機体に離る

ほどという。そのための現場では美談のあるジム・クワールを好む傾向にあった。選次ハイザックに機体転送中ではあるが、ライネス大尉機は転送よりもム・クワールの近代化改修申請し、却って失笑だった。その上、ジオ・連合の機体基準に全属した本連隊の代行として、先方クリフから来た機体降りてはかりである。部下達は先方機体力下置に慣れている。初参戦となつてライネス大尉は不安を覚えた。  
彼は半回線まで進んで来た機体船とも見えるアルベール空母の砲台を思い出す。  
「我が隊の機体基準を回収せよ。互には問わない。若干の状況説明が行われただけで、緊急出動となった。それだけでも充分だ。方

法は問わないとまで言うのに先方連隊への協力要請はなかった。普通ではまずない」と。  
何か裏があるのだから、とライネス大尉は考える。だが彼にとってそのことをどうでもいい。機体争いに興味はない。機体改修するのはMSパイロットとして一人一人として生き残る力だ。そしてその力を活かす機会に次の世代に伝えたいと願う。今の機体はヒンカビー少尉とオレ少尉を一人前のMS乗りにすることだ。今回は二人にとって初めての宿敵となる。敵を倒せば足場はない。だが必ず生き残りさせてやらねばならぬ。難しいが、やるのだ。シドニー湾の戦いのような惨めで悲しい思いを二度としない。  
情報によれば敵機は二機。味方機の内、一機は偵察型だから威力比は五割。しかしこちらが初参戦のバイロッドと二、高度な遠距離戦術は出来ない。上手く遠距離でたたきどうしたものか。  
ヒンカビー少尉から無線が入る。ライネス大尉の思考は中断させられた。  
「表外線反応がありました。距離一〇〇〇、高度二〇〇〇。熱線ジェット機、ベイス・ジャバー！やばいぞ、それ以上近づけません。ミニアビーでガッパ機、それ以上近づけませんわ。」  
「緊急にアラブティス系のセンサーを切れ。逆探知の可能性がある。」  
「もう切っています。光害系のセンサーだけで追跡モードに入りました。予選進路を送ります。」  
ヒンカビー少尉は上機嫌だ。ライネス大尉は彼の慎重さとしての前に呆れた。数秒後、独行偵察型サブIIからのデータが短距離表外線通信で送られて来た。その処理が終わつてHURDに通信目標機影の完全データが表示されると、ライネス大尉は口をにらんだ。  
「サンジバル機とどう？」



## STORIES

## ADVANCE OF Z 刻に抗いし者

## 第一話～第六話 あらすじ

2010年8月よりスタート、現在「GUNDAM.INFO」で連載中の「刻に抗いし者」の小説。ここでは原作をまだ読んでいない人のために、2011年2月公開の第6話までのストーリーをダイジェストでお届けしよう。もっとしっかり読みたい人は、単行本1巻とWebをチェックだ!

illustration Koma

## 第零話

## 少年達の一年戦争

一年戦争初期、ジオン公国軍は制圧艦モビルスーツを戦線に投入し、物資に頼る地球連邦軍に対し優勢を誇っていた。北米における地球連邦軍の一大拠点、キャリフォルニア・ベースもジオン公国軍の侵襲に許し、市民はこそこそその監視下に置かれた。

アーネスト・マクカイヤは妹のダニカと隣家のヴァン・アイリアイノを連れ、キャリフォルニアを抜け出し、砂漠を越えて中米の連邦軍支配地に逃げ込む決意をする。アーネストが16歳、ヴァンとダニカが12歳だった。

だが砂漠地帯は想像以上に過酷で、水や食料の消耗に加えて体力の限界も近付くつらあり、年長者で計画を立てたのアーネストは焦りと後悔に苛まれていた。そんな中を救ったのは、地球連邦軍のハビエル伍長だった。彼はジオン公国軍との戦闘の際に隊からはぐれ、友軍に合流しようとハーフトラックで一人の砂漠を移動していたのだと語る。アーネストたちはハビエル伍長とともに中米を目指すことになった。

安堵感につつまれた3人だったが、大きな裂け谷が行く手を阻む。そこにジオン公国軍のワッパ2機とザクが偵察に目覚め、絶体絶命の状況の中、ハビエル伍長は自分が偵察部隊の足止めをするから、3人で谷を渡れと言うのだった。



## 第一話

## 刻は動き始める

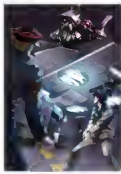
一年戦争終結からおよそ6年。ヴァンとダニカは、アーネストが教習助手を務める地球連邦軍の士官学校で、士官候補生として訓練を積んでいた。

クリスマス休暇に実家に戻ったヴァンは、戦場カメラマンだった父の友人の訪問を受ける。その男は説明もなくヴァンに記録媒体を手渡す、逃げるよう立ち去った。

訝しげに記録媒体の中身を再生してみると、そこには30パンチ事件の映像データが収められていた。事の重大さに愕然とするヴァン。アーネストに相談し、翌日士官学校に戻るが、当のアーネストは数日不在にしているという。

ヴァンの様子がおかしいと感じたダニカは、彼が有事のあらましを聞き出す。そして映像を見たあと、「私を信じて。何があっても」とヴァンに訴えた。

数日に士官学校にティターンスの隊員が訪れられた。彼らはヴァンを軟禁し、暴力に訴えて記録媒体の所在を聞き出すとするが、ヴァンはダニカの言葉を信じ口を利かない。業者やしたティターンス隊員たちはヴァンを彼らの拠点に移送しようとするが、その途中、護送車が不明火のMSに襲われる。ヴァンは謎の組織に救出され、ダニカとともに逃げるのだった。



## 第二話

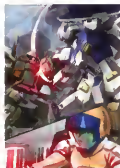
## まだ戦争じやない

ヴァンとダニカはサンジバル線戦線に收容される。それは、「反ティターンス」を標榜するテロ組織の母体だった。ダニカは自分がMSパイロットとして組織に加担することに条件に、ヴァンの母は依頼したのだった。組織に近づければ、パイロットの補充ができるということが魅力だったのだ。

一方、ティターンスの作戦指揮官はアーネストをティターンスへ入隊させることを決定。機密を持ち出したヴァンと、人質として連れ去られたダニカ、アーネストはティターンス隊員として縁を救出するというシナリオが、本人の知らないところで裏かいているのだ。アーネストはそれでも、この機を逃すと二人に接触し連れ戻すチャンスがなくなると思い、入隊を承諾する。

同じ頃、ヴァンらを乗せたサンジバル級「ガラウノス」は、ティターンスMS部隊の追撃を受けていた。ダニカはガラウノスのMS部隊長・ルシアンとともに迎撃に出るが、実力に勝る敵にダニカは無力にたじろぐ。そしてルシアンの防衛線を突破したティターンス側の隊員、ライネスはガラウノスに取り付き、記録媒体を逃すよう要求。ダニカとケラウノスの安全を確保するため、ヴァンは決意する。





## 第三話

### 決別

負傷したパイロットの代わりとして、新たにライネス隊に配属されたアーネストだった。ライネス隊は地球連邦軍北方方面軍の支援部隊で、ケラウノスに對する過激な攻撃を仕掛けることになった。

ケラウノスの中では、ヴァンが主任整備士、ロバースを主としてジム改の組み上げ作業を任されていた。自分を助けてくれた恩を少しでも返そうという思いからしたくなったが、そのジム改に自分が乗って戦場に出るつもりはなかった。

そしてジム改のセッティングが終わった頃、ティターンズMS隊ケラウノスに激しい着陸攻撃が開始された。アーネストは戦艦の中にヴァンとダニカがいるのを知っている。だが初戦の彼には、気にはなっていない。二人の話を聞いている余裕はなかった。

ダニカは今もルアンととも迎撃に出る。ダニカは自分を助けるためにこの戦艦に参加することを決めた。現実に今、MSに乗り込んでティターンズと対峙している。ヴァンは思いついたままに決断し、自分もジム改で迎撃に出る。戦艦のフォルカに申し出た。それは組織の考えに賛同したからとティターンズを憎んでいるからでなく、ただダニカ一人に責任を負わせることはできないという思いからだった。

## 第四話

### 戦う理由

ヴァンが戦場に出るようになって4ヶ月。その間に幾度もの戦役があったが、ヴァンは未だ恐怖心を克服できていない。それと自分が死ねばいいのではなく、相手を殺してしまいたくないという気持ちがある。それと自分に対する感情に囚われ、シミュレーション通りの動きができない。ようやく初撃を記録したものの、その代償にジム改は中破してしまった。

格闘としては申し分ない。G制性も人並み以上。だが心機が優れない。パイロットとして人間になってもうた。フォルカーはヴァンをダニカとともに、シンパである地球連邦軍基地での業務訓練に向かわせようとした。

アーネストの所属するライネス隊は、北方フリカに配属されていた。いろいろ言われはしたが、要は厄介払いなのだ。アーネストは思っていた。だがシフト感覚が多く居るの地帯で、アーネストは戦艦の乗組員を経験し、パイロットとして成長を見せたい。

ある日、ライネス隊に命令書が届く。そこには、強化人間や特殊部隊、地上戦艦MS隊に配属と書かれている。指示された通りにライネス隊は北方、オークラウド新基地に赴く。そこで、強化人間だと紹介されたのは、まだ10代半ばと思われる少女だった。

## 第五話

### 強化人間

シミュレーターで対戦すると、アーネストと同様の反応能力は、瞬く間に、強化人間と同等のレベルに達する。強化人間と同等のレベルに達する少女は、アーネストと同等の戦術能力の高さや苦を乗り越える能力がある。だがアーネストは彼女が、長年と見なしている少女・ロバースを、一人の人間として接する心に決めるのだった。

シミュレーターでは大規模な反政府デモが行われていた。コロニーではデモ鎮圧に際し、ティターンズのMSが派遣されたという。ケラウノスはアトル近郊に爆みそを見守っていた。そしてデモが当たり、鎮圧にティターンズのハザード3機が投入された。ヴァンはダニカ、ルシアンとともに、ティターンズの暴走を止めるために出撃する。

戦艦に入ると、ヴァンは総機無尽の活躍を見せ、敵MS部隊を撃退する。それはその月に達する実験訓練の成果でもあるし、また強化されたジム改の能力でもあった。

ロバースを加入するライネス隊は、アラスカで新たな配備先、陸軍部隊、ニコシアに合流した。ライネス隊の役割が変化する。ニコシアはヘリング海軍の孤島を自指す。それはジオン残党のアジトと目されており、その機密がニコシアの任務だった。容赦ない、総機無尽の末、島は形を変え、ほとんど破壊され、ニコシア艦内は喝采に包まれた。

## 第六話

### 俺に銃を向けるのか

アラスカの基地で、アーネストはシミュレーターで起こった戦況の交戦報告を聞き、ヴァンとダニカがMSで戦い続けている事実を知り、衝撃を受ける。ニコシアの次の任務は、ケラウノスに侵襲するデモ隊、そして隣接する村への侵襲だった。つまり、アーネストはヴァン、ダニカと戦ってしまえることになる可能性が高かった。

一方、ケラウノスでもニコシアの次の目標が自分たちだとこの情報を知り、村人全員をケラウノスに収容することを決めた。基本的にケラウノスが侵襲するのは高層の一手段。夜明けとともにケラウノスは出撃。ヴァンは殊死の防衛隊とともに村に残った。村とトントを戦ったティターンズに二矢報いるためだった。敵の第一陣を撃退すると、新手としてアーネストの駆るジム・クワールが単機でやってきた。

アーネストはケラウノスの村に立つMSを見ると、それがヴァンの乗機だと瞬時に気付いた。アーネストはヴァン同様で機動を申し出る。長いこと待ち望んでいた面会だった。だが、何となく二人の信頼は違方向に向かっていた。和解することはない。

そこにロバースが駆けつけてくる。アーネストを怒らせたヴァンに対し、怒りをぶつけるように攻撃を仕掛けたのだった。



CG制作: RED CRAB

模型製作: 空山竜司(ジム改)

takayo4(ハイザック[アイリス])

近衛巧巳(ザク・フリッパー)

人首猛(ベース・ジャバー)

撮影: エルクラフト

「ダニカ」

「ヴァン！ 出てきたの？」

「ダニカはヴァンのフォロイにつけ、私はギム・クウエルの跡を断る足止めする」

ルシアン隊長の命令が聞こえ、ダニカは

イヤック「アイリス」がマシンガンで連射し

ながらベース・ジャバーから降り、ヴァンは

ハック「アイリス」を回収した。

「戻すことないのに」

「戻ったようなダニカの言葉に、ヴァンは胸

を打って答えた。

「お前と同じ気持ちだから」

「はバカだね」

「そう、ダニカの顔を見た気がした」

ハイザックという感情がなくなつたルシア

ン編のSFSは完全に怪やかに異い、テイタ

ーヌのベース・ジャバーを機動で襲った。

彼がダニカと同等したのは彼女を心配して

のこと、彼女は大抵は関係ないよだった。

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

「お前どのM...」

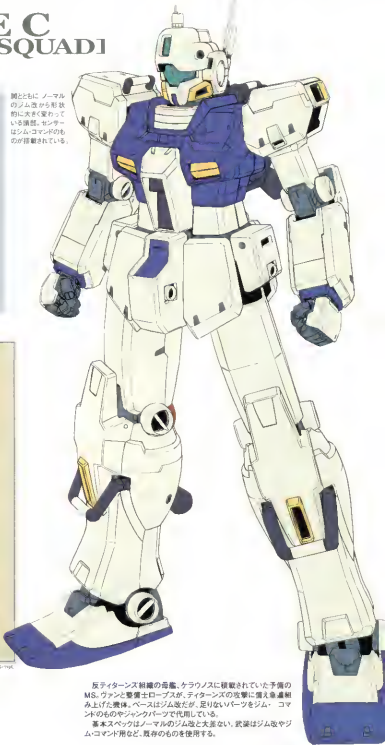
「お前どのM...」

# RGM-79C GM TYPE C [KERAUNOS SQUAD]

RGM-79C ジム改(ケラウノス所属機)



間とともに ノーマルの  
ジム改から形状  
的に大きく変わっ  
ている機体。センタ  
ーはジムコマンドのもの  
が搭載されている。



反ティターンズ組織の奇襲、ケラウノスに搭載されていた予備の  
MS。ヴァンと整備士ロープスが、ティターンズの攻撃に備え急遽組  
み上げた機体。ベースはジム改だが、足りないパーツをジム・コマ  
ンドのものやジャンクパーツで代用している。

基本スペックはノーマルのジム改と大差ない。武装はジム改やジ  
ム・コマンド用など、既存のものを使用する。

# 体制を支える巨人兵たち

一年戦争終結後、地球連邦軍では軍内にてRGM-79に代わる次期主力MSの開発研究が進められ、量産を前提とした複数機の採用MSが生み出された。だが結局は機体変更が容易で、なおかつRGM-79の生産ラインをそのまま活用できるという強みから、RMS-179が採用されたこととなる。

こうした状況の中で、アナハイム・エレクトロニクス社（以下「A・E社」）も自社MSの連射型制御用を悲願とし、GPシリーズの開発協力などで軍部との距離を縮めていた。しかしそんなA・E社にとって、思わぬ参入障壁が立ち塞がることになる。ティターンズの台頭である。同組織の権威は地球全土に及ぶ運用兵隊の操縦にも影響を及ぼし、RGM-79やRX-178など、宇宙軍の

## V作戦

地球連邦軍において新兵隊-MSを開発するプロジェクト、試作機であるRXシリーズが製造され、これに基づき主力MSであるRGM-79の開発が進められた。



## 戦後の主力MS候補

### オーガスタ系の系譜

RX-78NT-1はニュータイプの種差を想定して開発された高性能機であり、その設計資産の一部はRGM-79N、RGM-79QGにも活用された。これらの機体は連邦軍オーガスタ基地で研究開発されたことから、「オーガスタ系」として分類されることもある。

RX-78NT-1  
ガンダムNT-1  
[アレックス]



## 戦後に生まれた後継機

RGM-79に続く地球連邦軍の次世代主力MS候補として戦後に開発された機体群。性能に突出した点はなかったが、既に稼働しているRGM-79の生産ラインを活用できる点を評価され、RMS-179が主力MSとして選定されたことになった（ちなみにU.C.80年代後半には同じ理由からRGM-86Rが制式採用に至っている）。ヴァンが採集する機体【ワクザイル】は、C型をベースとし、この時代のRGM系統の余剰資材を組み合わせて強引に組み上げられたものである。



RGM-79C  
ジム改



RMS-179  
ジムII



RGM-79G  
ジム・コマンド



RGM-79N  
ジム・ガスタム



RGM-79Q  
ジム・クワエル



RGM-89  
ゼガン



RGM-86R  
ジムIII



RX-178  
ガンダムMk-II



MSA-003 ネオ

アナハイム・エレクトロニクス社

## A・E社の悲願

アナハイム・エレクトロニクス社は、RMS-099「リック・ディアス」など自社MSからのフィードバックを得て、汎用量産機としてMSA-003を完成させる。また同社はグリプス戦役を通してその開発能力を連邦軍にPRし、U.C.80年代末にはついにRGM-89で、連邦軍主力MS本流の要途に成功する。

# RGM-79C GM TYPE C [WAGTAIL]

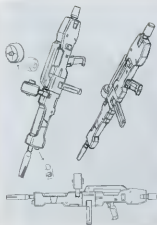
RGM-79C ジム改[Wグテイル]

ティターンズのハイザックやジム・クウエルに対抗するには、基本スペックの乏しさを補っていたヴァンのジム改を、中級したのを機に大改修した。地球連邦軍の次期主力機用に関与された試作パーツを“スポンサー”から譲り受け、それをジム故に強引に取り付けたもの。コードネームは[Wグテイル]

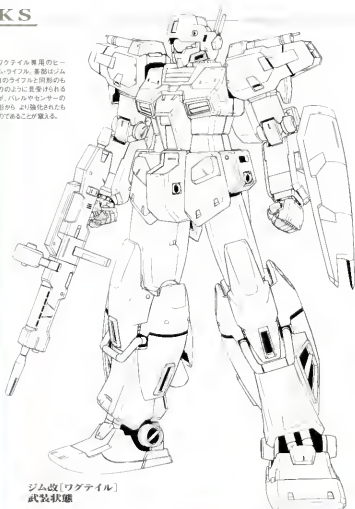
バックパックに同調のスラスター、脚部バーニアを増強、脚部に至ってはフレームを延長、新型エンジンを搭載しプロペラント容量も拡大している。

結果、機体本来の性能に対して過剰なまでの機動力を手に入れたが、その分操縦が難しい、ピーキーな機体になっている。

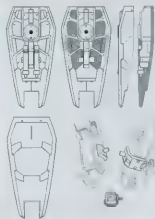




ワグテイル専用のビームライフル。基部はジムIIのライフルと同形のもののように見受けられるが、バレルやセンサーの形からより強化されたものであることが窺える。



ジム改〔ワグテイル〕  
武装状態



シールドは、左翼スラスターに干渉しないよう、上半分が切り取られたような形状。シールド裏にはビーム・サーヘル2本を収納する。

## ジム改からワグテイルまでの変化の過程



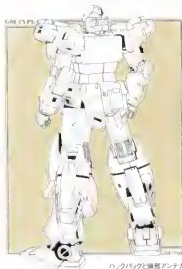
ジム改  
〔ワグテイル〕



ジム改  
〔ケラウノス所属機〕



ジム改



ハクバノグと調整アンテナを外した簡素。

PIZZA



着色された部分がノーマルのハイザックと異なる箇所。青いパーツはプラモデルのバーノガキのものを流用するという。モテラーに肉付けられた貝氏の気配り。



## RMS-106 HI-ZACK [KERAUNOS SQUAD]

RMS-106 ハイザック [セラウノス所属機]

ティターンズの不法居住者野に対して抵抗活動を行う、フォルカーが運用するハイザック。ノーマルのハイザックとは右肩のスパイクやパイプの取り回し、各部の補強などさまざまな点で異なっている。基本スペックに差異はない。特筆すべきは冷却能力の向上で、胸部ダクトは廃止され、新たに冷却機が取り付けられた。これにより作戦活動時間がノーマルタイプよりも延びている。

機体武装は専用の155mmマシンガンランチャーで、キネティック弾と極超音速誘導ロケット弾を発射できる。

Design 片貝文洋

HI-ZACK[IRIS]



© MSB 2010

## RMS-106 HI-ZACK[IRIS]

RMS-106 ハイザック[アイリス]

ティターンズMSとの交戦の際に頭部が破壊されたため、光学系装備を強化したタイプに変更されたハイザック。頭部以外は武装も含め前のバージョンから変更はない。パイロットであるダニカに合わせてというわけではないが、[アイリス]というコードネームが新たに付与された。



# RGC-83 GM CANNON II [Lucien Bendt use]

RGC-83 ジム・キャノンII [ルシアン・ベント専用機]

元ジオン公国軍MSパイロット、現ケラウノスMS部隊長であるルシアン・ベントの専用機。物質および人員が豊かとはいえないケラウノスにあって、中距離支援のみならず近接戦闘まで、単機であらゆる状況に対応する必要から、左腕には格闘専用設備が施されている。

特徴的な迷彩パターンは一見、涼しに見えるが、コントラストの強い縦横線により全体の形状を判別しづらくし、進行方向や移動速度を見誤らせる効果に期待される。

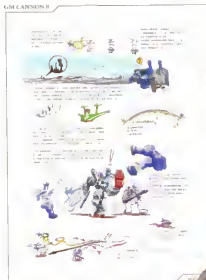
頭部形状は強化センサーを搭載したことにより、ノーマルのジム・キャノンIIとは形状が異なる。



左腕に装備されたヒートホークは、会戦直前にロケットが改造して取り付けられたもの。近接戦闘時の打突兵器として、また敵のヒール・マーベル等を受け止める電撃として使用する。

# DESIGN WORKS

GM CANNON II



片貝文彦による ケラウノスMS隊の戦術解説。  
中 長距離砲撃の問題点の指摘や、より有効なM  
S一画小隊の運用がこと細かに解説されている。





## ZANZIBAR

こちらはケラウノスのベースとなったザンジバル。他の同型機に比べ、スマートなフォルムが特徴的。魚雷と同様に熱核ジェット・ロケットエンジンを搭載し、大気圏内外での運用が可能。2連装メガ粒子砲1門と固定メガ粒子砲4門を備える。

# ZANZIBAR-CLASS TASK FORCE BATTLE CRUISER KERAUNOS

ザンジバル級機動巡洋艦 ケラウノス

元ジオン公国軍兵士、フォルカー・メルクス率いる反ティターンズ組織の母艦。一年戦争時にソロモンで撃沈したザンジバルを、戦後地球連邦軍が回収・修理した艦。評価試験が終了したのも、"スポンサー"からメルクスたちが譲り受けた。修理の際、艦首のブリッジは艦橋構造となった。メインバーニアを左右に分割し、空いたスペースに新たにMS用の格納ハッチを設置している。



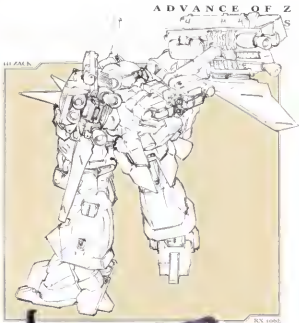
# RX-106E HI-ZACK [VANARGAND]

RX-106E ハイザック「ヴァナルガンド」

強化人間であるロスヴァイセのために用意された強化型ハイザック。機体全身に手が増えられ、その容姿はもはや原型の面影がなくなるほど。随所にティターンズが独自開発した技術が投入されている。

バックパックから左右に延びるフレキシブルブースターを絶め、各脚にスラスタースターとブースターを増設、圧倒的な高機動性能を手に入れたが、パイロットにかかる肉体的負担も凄まじく、まさしく強化人間でなければ降ることのできない機体となった。

さらに大出力のスラスタースターとプロペラントタンクを装備することにより、短時間ながら空中での移動および高空が可能になる。

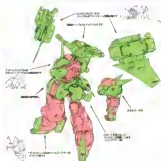


# DESIGN WORKS

Design 藤岡建機

HI ZACK

ノーマルのハイザックから変更された箇所、赤がノーマルのまま使用する部分、青が取り外すパーツ、緑が新規パーツ、ベイズルなどTRシリーズで運用されたシステムが散見できる。



RX-100B

HI ZACK



頭部および胴体部、緑部分が新規部分、頭部はノーマルのものに専用パーツを"嵌めている"ことが理解できる。

RX-100B



RX-100B

肩から腕、およびシールド。シールドには打突用の外縁が取り付けられそこにヒバクカミルダーが装備される。



さらにスラスタやブースター、プロペラントタンクを装備したフル装備状態、大推力に物を寄せ、短時間ながら飛行、滞空を可能にする。



飛行前後のビームライフル、ガンダムMk-IIのウイグルをベースにバレルとストックを延長、さらにMk-IIのハイパーバズーカを切り詰めたものを、バレル下部に取り付けている。

ヴァン・アシアライノは恐怖していた。ジム改のコクピットで最初の喪れを葬し殺し、左右のステータックを強く攪りしめる。全天周ニステータックには雪が残る放牧地とその中を駆けて来る敵機が映し出されている。ハイサックはシールドを前面に突き出しヴァンに銃口を向けた。

ヴァレはフットペダルを小刻みに動かして、回避行動を取り、ハイザックに顔を合わせさせた。HUD上にも、敵機との照準線が通って来た。HUD上には、ロックが完了した。しかしヴァンはトリガーに指をかけたまま、コンマ数秒ためらった。撃つて当てる確率が彼の胸に生ずるなかつた。理由は、ない。その間、ハイザックはバックステップを入れて、ロックを外し、ヴァンの側面に回り込んだ。せつかくの好転を逃した。

部」に別々のMSSと戦っている。MS戦の最中に振替返還している全格はないため、ヴァンはサイドミラー裏に後方映像をカプティン表示させている。目の端で戦況を窺うとハイザックを相手に対二カも苦戦していた。新米パイロットは「対一の戦闘に陥りやすい。経験豊富なティターンズのパイロットに引き離されてしまったのだ。」

これにシミュレーターじゃない。実戦なんだ  
そう気づくとヴァンはどうしてもマイナス  
感情が拭えない。

死への恐怖。実弾が生み出す衝撃と閃光への恐怖。敗北への恐怖。そして相手殺してしまつかもしれないという恐怖。

ヴァンは軍の感覚が鈍れてくるのを察しつつ、左側面から迫る戦機を見据えた。動力性能はハイザックが勝る。ヴァンが回避してもハイザックはすぐには追いつく。ハイザックが発砲し、ヴァンはシールドを使って「ニコミ」リ弾を受けける。衝撃と共にシールドが破壊され、ヴァンは同時にそれをバouncesする。まだ自分が「ミニシューター」通りに動けると分か

「ワァンは少しだけ落ち着いた。反撃しなければ本当に死ぬだけだ。」

「もうだ、動かないと……死ね」

その後、ヴァンは声にならない声上げ  
た。そしてヒュー・ハイワルをハイザックの  
向け、ジム改を宙高く飛び上げさせる。この  
ジム改でハイザックに勝る物は機体重量に比  
べて不釣り合いなほど強化してある関節スラ  
スターだだけだ。そしてその加速は敵パイロッ  
トの想像を遥かに上回る。

ジムの上唇はビーム・ライフルのから  
 準拠が収束した。ヴァンはハイザックの頭の上  
 から光線を発射する。一発、二発、そして三発  
 同時にハイザックがサグ・マシンガンでジ  
 ムを迎え撃つ。至近距離で、テクニクス  
 が外すはずがない。リニアシートで頭和しな  
 れぬ機體の裏面にヴァンの心は、瞬で決り付  
 いた。各種アーマーが点灯して警告の喪失  
 と、右腕部の損傷を報せた。しかしそれらを  
 代償にビーム・ライフルの光線がハイザック  
 の頭部と右腕部に吹き飛ばし、ザク・ザク、  
 ハイスコクが次々飛んだ弾と共に空響の上に落  
 下し、ハイザックはリニアシートを射出する  
 と離脱した。ジム改は片脚で前進するよう  
 に動機したが、直立を維持できず、その場に  
 倒れてしまった。

ヴァンは頭を食いしばって目を固く閉じ、その衝撃に耐えた。

衝撃をややすくして臉を開けると、今年大園モニターの前面に真っ青な空と白い雲が映し出されていた。

ヴァンは顔を噛んだ。

まだバシアン隊長とダニカがティターノズと戦っているのが各種センサーで捉えられた。死への恐怖はまだある。

しかしそれは押し殺すしかない。  
ヴァンはそう幾度も自分に言い聞かせた。



CG製作: RED CRAB  
模型製作: 空山竜司(ジム改)  
撮影: エルクラブ



#### 第四話「戦う理由」の

タニカとともにティターンズと戦う覚悟を決めたヴァンだったが、いざ戦場に立ち敵機と対峙すると様々な恐怖に身がすくんでしまう。無我夢中でティターンズのハイザックを初撃墜するも、自身のジム改は大きなダメージを蒙ってしまった……。



#### 第四話「戦う理由」より

実戦での初撃墜を記録したといはれ、ウァンに喜びの感情は沸いてこなかった。  
それは自責を重畳させてしまったからだけではなく、戦場に人の死を実感してしまったから。  
自分の死傷はもちろん、敵を殺してしまったことも、ウァンにはとてつもなく重く感じられた……。

フォルカー・メルクスは艦長席で奮闘した。

ケラウノスがベリング海を渡る。海きどツクを後にして一ヶ月が経つ。ティターニスは三月の内にケラウノスの捜索を打ち切り、再び北米のジオン公領に乗り出していった。

その報せを知ったケラウノスは北米に無い限り、降止に備えようとした。現在はMS隊を回収するために北米上空に留まりつつ、ティターニスの捜索を断り切っている最中だ。

フォルカー・メルクスは副艦長、ルシア・ハバントと先回りしてケラウノスの艦隊の中には破壊、地球降参り、不法居住者狩りといったジオン兵が得意とする、ティターニスにとって不法居住者狩りはブツブツ効かなくて他ならず、現在では「ジオン特務隊が不法居住者狩り」の構図が定着している。

ケラウノスの特務隊は不法居住者狩りに抵抗し、北米でのティターニスの動きを阻ぐ、ということである。この点に於いて地球連邦軍の勢力と北米方面軍の二部勢力の思惑が一致し、ケラウノスは結成された。ヴァンとタニカを助けたのもMSパイロットが欲しいという理由とは別に、大体的な行動が一致し、ティターニスの注意がケラウノスに集まり、不法居住者狩りがはかばかしく止むだろうという期待があった。しかし止まらなかったのは三月間にも過ぎなかった。これが理由の理由だ。

もう一つの理由にジム改が中破しとの報告を受けたからだ。ケラウノスは結成されたばかりで資金の余裕がない。最近のジオンナは宇宙の反地球特務隊を振り回すのに躍起になっており、補給が滞っている。修理には金もパーツもない。手持ち資金の大半は今度で艦体の改修に費やさなくてはならない。ヴァンがハイザックを撃退したのはいいが、テロリストが資金面でティターニスに敵うはずがない。こんなことなら昨年冬に撃退したムウ・クワエルを再起用しに面識しておく

のだったとせこい後悔をし、また嘆息した。

なまんな短編の現状を慮ってが、ルシアンは今回ヴァンが撃退したハイザックの残骸をベース・ジャバーに観せて謝罪した。

MS隊がフリッジに上がって来るとフォルカー艦長は表情を引き締め、冷静を装った。

そしてルシアンから結果と不法居住者狩りの難状を聞き、安堵の表情を浮かべた。

「ヴァン・アシアライノ。初撃隊たる。あめです。」

部下が結果をあげれば賞めるのが指揮官の務めだ。

「ですが、機体を中破させてしまいました。」初撃隊を記録したというのにヴァンは浮足立っている。

「もつと善べ。後の時もルシアンの時も、もつと保護したものだ。」

「……相手のリニシートが無事救出されたのを喜ぶ考えでしつたんです。命のやりとりをしている以上、戦味方を知りずんばは辛苦だし、特に考えることではないのかな、と思っています。」

「私達の時はそんなに考える余裕、なかったですね。」

ルシアンが俯首を垂れてしまった。

ヴァンは優しく、兵士に向いて、い

とすら思う。しかしここで後を放り出すことはフォルカー艦長にはできなかった。

ヴァンとタニカを艦橋から下ろさせ、フォルカー艦長はルシアンに相談をした。

「お前が覚えていつにパイロット過止はあるか？」

「あります。」

ルシアンは即答した。「彼は伸びるでしょうね。リニシートシステムがあるとは……」

「あんな機動で回されるのは生まれ持った能力と天性の思いです。」

「それは分かる。だがあの頃はパイロットになさけい捨てたつたからな。今はどうもい

「……」

ルシアンは肩をすくめた。

「……」

「……」

「……」

CG製作: RED CRAB  
機体製作: 空山竜司(ジム改)  
撮影: エルクラフト

# の実戦に挑む急造機

新しい「A.O.Z.」において主人公・ヴァンの最初の乗機となったのがこの急造型のジム改だ。小説本編でもジム改やジム・コマントのあり合わせのストックパーツを組み合わせた急造品という設定なので、作例でも各キットのパーツをミキシングし、プロポーションなどに調整を加えて完成させている。手掛けたのは前作の「A.O.Z. ティターンズの旗のもとに」でもメインモデラーとして活躍した空山竜司。本企画でもその熟達の手をいかに披露している。

## RGM-79C ジム改 [セラウノス所属機]

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット  
"Master Grade" RGM-79C ジム改 改造  
製作:空山竜司



GM TYPE C



## RGM-79C GM TYPE C [KERAUNOS SQUAD]

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"Master Grade" RGM-79C GM TYPE C conversion  
modeled by Ryuji Sorayama

# 初めて



ジム改とジム・コマンドの近親型とも言える機體はほとんどがスクラッチ。正面パイザー部分はキットパーツをベースにパチヤを組。後部目には強化された通信機軸のためのアンテナを追加した。



パ/クハ、ウは完全スクラッチ。スラスター付近に蒸エンジンが多かったので苦労したとか。サーベルラックがないバージョンもバーンの差し替えて再現できる。



腕部サイズに合わせて断金体を組み込んで一節り小型化。ヒジガードはプラ材の箱組みからの加工で、独立して可動する。



MG「ジム改」と「ガンダムVer.HK」などのパーツを組み合わせ製作。手足は金半金が加工済みのため。



足関節は、ウレタン製のハールにプラ板を貼り付けて裏に張り出させ、前後アーマーはより鋭角的になるように形状変更。両サイドのアーマーは内側に近い込み数との隙間をなくした。



REAR VIEW



LEFT SIDE VIEW



FRONT VIEW

# RGM-79C GM TYPE C IKERAUNOS SQUAD

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"Master Grade" RGM-79C GM TYPE C conversion  
modeled by Ryuji Sorayama



## RGM-79C ジム改[ケラウノス所属機]

バンダイ 1/100スケールプラスチックキット  
"マスターグレード" RGM-79C ジム改 改造  
製作:文・空山竜可

前シリーズ「ディターンズ」の旗のもとに  
で、一足目の作例もジム改だったので、同  
様のイメージを感じますが、長年「A・O・  
C」と呼ばれてきた身として、使命感を持つて  
今回も描かせてもらいました。

派生機でもあるジム・カスタムやジム・キ  
ャノンを見た後だと少しスマートに見える  
せいで細身で長身のシルエットにしてしま  
いがちですが、骨太でしつかりした感じに  
ほうがよからしく見えます。キット全  
体の形状や塗装が上半身のポリウレタンに  
負けているように見えるのですが、胴部自体の形  
状はすてきだと思うので今回は胴部のパ  
ランスはそのまま、上半身のプロポーションを  
更に筆を濃いた方向で作ってみました。

### 胴部

おでこのセンサーはプラ板の箱組みから  
アゴ周りを削り込み、ダクトラテ板から作  
り直しました。カメラ形状が半円になるので  
足りないところはパテで足場。時間があれば  
クリアアクリルに置き換えたかったですね。

### 胸部

ダクト機のC面をなくすように中央で3ミ  
リ、両サイドで0・5ミリずつ削詰め。  
厚回りも手には1ミリ程度だったので、頭頂高を  
変えないように腕関節フレーム取り付け位置

を下にずらしました。

### 腕部

肩のダクトを正方向になるように加工し、  
前後のスラスターを追加。胸部の小型化に合  
わせて上腕から前腕、さらに手首にかけて全  
体を0・5ミリほど削り込み、一回り小さくし  
ました。

### 脚部

基本的にはフレームはそのままで、パーツ  
割りの都合がきかかったので外装はMGガン  
ダムVer. Ka」のものを活用。アング  
ルガードがない特殊なデザインなので、足首と  
の隙間をなくするためスネの前足外装は少し延  
長しました。

いわゆる「スリッパ」部は初期機の下カッ  
とした印象が強かったので、かなり手を加え  
たところ。いじり始めるとなかなか終わりの  
見えない箇所なので、こども「Ver. Ka」  
を適用してもいいと思います。



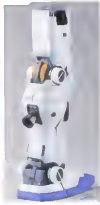
平たく長い特徴的なノーズはご存知の通り。アングルガードがないために斜めに目立つ構造となっている。



武装は基本的にキートナーのままで、ノールドは「ジム・カスタム」のもの

- Coloring Table
- 白 1番 ホフ白(90%) + 313番 エイロー F83331 (20%) + 67番 パープル極少量
  - 青 65番 インディーブルー(40%) + 80番 コバルトブルー(60%) + 67番 パープル少量
  - 黄 6X4キアライエロー(50%) + 1番 ホワイト(20%)
  - 黄 72番 ミディアムブルー(50%) + 67番 パープル(20%)
  - ブルー 63101番 ファンタムグレー
  - センサー CS122番 ブルー(20%)
  - スミ入れ タミヤカラー XF-1フラットブラック、タミヤカラー XF4920-キ

※時に表記のあるものを除き、GSIクレオスの「Mr.カラー」および「ガンダムカラー」を使用。



胴部外装はMG「ガンダムVer. Ka」から流用。ヒザのロールバーはプラ材から自作。スネはアングルガードのない脚部を埋めるため、下に延長した。

# ケラウノスの虎の子MS

「刻に抗いし者」の立体作品第一弾として「電撃ホビーマガジン」誌上で発表されたのは、ヴァン在非日常へと誘う白いハイザックだ。MGキットをベースに製作し、形状の違いをフォロー。マーキングなど細部が明かされていない段階での立体発表となったため、比較的シンプルに仕上げている。



肩はキットを2体使用して両方ともスライクアーマーに。前胸部の動力パイプを横スクエアなカバーはプラ製角パイプから製作。



左足根が毀れたため、パイプは硬化前のレンジ棒を折り曲げて製作した。

**RMS-106  
HI-ZACK**  
[KERAUNOS SQUAD]

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"Master Grade" RMS-106 HI-ZACK conversion  
modeled by takayo 4

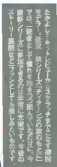
RMS-106 ハイザック  
[ケラウノス所属機]

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット  
"マスターグレード" RMS-106 ハイザック改造  
製作・文: takayo 4

今回はA・O・Z「刻に抗いし者」に登場するハイザックのバリエーション機をMGヘルスで製作しました。

本誌はもう一つ重要な、使役として右側をバイクタイプにキック、使用したパイパー、民間船アマー、民間船の動力パイパー、パイパーの船型を主にバイクタイプに形変えて、民間船、民間の動力パイパーを製造しないパイパーに要する、民間アマーや船型を中心に追加された強化部品や耐熱部品をばらばらパイナなどで出している。動力パイパーに関してはいくつが民間方法があると思いますが、100kgの太さ、曲4ミリにないアルミなどの金具は、曲け加工をするには硬すぎ、パイパー配線も弾力があるので急激な曲げは保持して、曲げ今回のような表面の、パイパーの支えも困難、というところから世界的な一種熱して

曲げるという行為が無難そうですが、ブラは熱すると曲がってしまうより伸びてしまい、均な太さで曲げを維持するのが難しいというところで、今回はジグミ製するときにジグミを渡し込みにランナー部分に使う丸棒がちょうど4ミリだったのでこれを加工してブラは硬化後はやわらかく弾性もあるのでも曲げやすく、硬化後も熱すると軟らかくなく、ブラのよう伸びないのでも外にも曲げ加工しやすい素材です。ただし伸びないことあまり急角度の曲材ではちぎれてしまうことがあります。また火の使用には十分注意を



マシンガンとプラ材、流用バーノなどでスクラッチ。過激系のラインの中で違和感を醸し出すドラママカシンが目を引き、違和とシオンの神妙融合の過渡期にある時代を感じさせる。



新規形状に変更というよりは新パーツが追加された  
 といった感じのバンクバンク。こちらもプラ材を中心に  
 製作。赤いセンサー部にはホイルシールを使用した



スラスター噴射口付近には耐熱シートが追加されている。ごく薄いものという設定なのでプラ板やバネなどで一段落差を設けている。



# 巨神族に抗う虹の女神

頭部を破損し、改修を受けたケラウノス陣のハイザック「IRIS」。作例も前回のハイザックを改修して製作することとなった。新規形状となる頭部を作り起こし、また新たに発表された資料に基づいて、各部のディテールやカラーリングなどをアップデートしている。製作は前回に引き続きtakayo4が担当。前回同様スッキリと清潔感のある仕上がりにした。

ダニカの出撃の際に破損し、改修を受けた頭部。キットをベースにプラ板やバネで形状変更。通常よりもやや前方にせり出して配置されたモニアイが、「センサーが強化された」という設定を印象づける。



## Coloring Data

本体白 GSX1番・クールホワイト  
+11番・ガウルグレー

本体黒 80番・バネトブルー+2番・フラグマ1番 ホワイトタマ  
頭部グレー 80番・FLM02グレー+2番・ブラック  
武器グレー 13番・ニュートラルグレー+2番・ブラック

※全てGSDクレオスの「Mr.カラー」を使用。

## RMS-106 ハイザック【アイリス】

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット  
“マスターグレード” RMS-106 ハイザック改造  
製作文 takayo 4

# RMS-106 HI-ZACKIRIS!

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"Master Grade" RMS-106 HI-ZACK conversion  
modeled by takayo 4



RMS-106



[アイリス]となって白の色味が追加されたハイグブラック・リニアースカートは、フクラハギと同様に耐熱フィルムをツヤあり塗装で再現している。



REAR VIEW



LEFT SIDE VIEW



FRONT VIEW



ヒザ裏の動力パイプにプラ板でディテールを追加。フクラハギ側面装甲に施された耐熱加工は、前回はプラ板による段差で表現したが、設定では非常に薄いフィルムを貼っているということで、今作では段差やスジ彫りを入れずに、塗装による光沢の変化で再現してみた。

# 戦後を生き抜く熟練兵

独特のカラーリングが施されたケラウノス隊のジム・キャノンII。ヴァンの良き上官であり、MS部隊長でもあるルシアン・ベントの乗機だ。「MGジム・カスタム」と「MGアレックス」のパーツを組み合わせて製作。最大の特徴であるゼブラパターンの迷彩のために、塗装工程はマスキングをひたすら繰り返す根気がいる作業となった。



頭部は強化センサーを搭載したことにより、通常機とはアンテナ数が異なる。

## RGC-83 GM CANNON II [Lucien Bendt use]

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"Master Grade" RGM-79N GM CUSTOM conversion  
modeled by Takumi Konoe

# 混迷の

## RGC-83 ジム・キャノンII [ルシアン・ベント専用機]

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット  
"マスターグレード" RGM-79N ジム・カスタム改造  
製作・文 近衛巧巳

駆力不足のケラウノス機では  
支援機でも近接戦闘をこなさね  
ばならないこともあり、肩にヒート  
ホークが増設された。しかし機  
体フレームの強度不足のため  
板、数箇所の使用が限界だとが

肩アーマーはアレックスのデュラムアーマー  
を縮めてサイズを合わせたもの。前照部  
分はブランチによるスクラッチ。キットの可動機  
構を残しつつ、追加装甲を塗装した形状を  
作り出している。



足が動きやすくなるように、スカートア  
ーマーは金属メッシュを用いて接続した。



前照に追加されたヒートホークは「MGザク」のヒートホークとプラ材を加工して製  
作。流用パーツとあり合わせの材料で持ち上げたという点では設定通りとも見える。

## Coloring Data

- 白 GX1・クールホワイト  
 黒 GS5・インディブルー+GX1・クールホワイト  
 濃紺 GS5・インディブルー  
 +GX1・クールホワイト+GX2・ウィノーブラック少々  
 赤 ビュアレッド(フィニッシュヤーズ)  
 +ビュアイエロー(フィニッシュヤーズ)  
 グレー GX1・クールホワイト+GX2・ウィノーブラック少々  
 ※特に表記があるものを除きGSクレオスの「Mr.カラー」を使用。



バックパックは「MGジム・カスタム」のパーツを芯にプラ板の箱組みで製作。箱身部分はプラパイプと加工した巾着の可動パーツの組み合わせ。



専用のライフルは「MGジム・カスタム」のロングライフルをベースに、角プラ棒を加工してバレル部分を製作。増設されたセンサーもプラ材により製作した。黒地にシルバーを吹き、茶塗装のロールアウトカラーをイメージした。

# RGC-83 GM CANNON II [Lucien Bendt use]

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"Master Grade" RGM-79N GM CUSTOM conversion  
modeled by Takumi Konoe

## RGC-83 ジム・キャノンII [ルシアン・ベント専用機]

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット  
"マスターグレード" RGM-79N ジム・カスタム改造  
製作:文 近衛巧巳



ジム好きを公言している私としてはようやく来たジムの制作ということ。最初はとも書んだのですが、その後カラー設定を見て一転、自分で色を塗るのかと、ちよつと尻込みしてしまいました。しかし、いち早く軌道定の機体を作れる魅力には抗えず、製作スタートとなりました。今回は、「MGジム・カスタム」を素体として、「MGアレックス」のチョコバム・アーマーを組み合わせるという定番の方法を基に製作しています。

■腕部  
パテやプラ板で形状変更。アンテナは市販の金属パーツを使用。メインカメラ部のクリアパーツは、真からクリアオレンジ色を塗っています。

■胴体  
胴体はプラ材にてキャノンの受け部分を製

作。腕部タクトもプラ材にて新規製作。腰部を左右に分離し、上下に移動できるように。

### ■脚部

肩アーマーは「MGアレックス」のチョコバム・アーマーのものを小改造して使用。上腕は「MGガンダム Ver. K」を適用しました。前腕部分は「MGアレックス」とは微妙にラインが違つたため、両腕ともラ板でスクラッチです。幸は市販パーツを加工したものに交換

### ■脚部

スネ部分は「MGジム・カスタム」を念にしておいてエポキシで製作し、レジンにて複製して両脚分を貼っています。アーク肩アーマーのカバーパーツはプラ板によるスクラッチ。ソール部はプラ材にてラインを変更しています。

このままでは、全体的に白く見えてしまうので、塗装が必要です。塗装は、まず基本色である白色を全体に塗布。次にマスキングをしながら、青・黒と厚塗りの色から塗装していく工程を繰り返している。今回の塗装パターンは別パーツであってもラインが繋がっている所は必ずマスキングを施した状態でラインの塗りが確認してからマスキング。塗装作業を行っている。塗装時間のほとんどをマスキングで費やしたとのこと。



RIGHT SIDE VIEW



REAR VIEW



LEFT SIDE VIEW



FRONT VIEW

# 仕える濃紺の鎮圧部隊

グリプス戦役時代の名脇役としてアニメ本編以外では活躍の目覚ましいジム・クウェル。作例では設定画とはやや形状が異なるキット脚部の改修を中心に手を加えた。製作を担当したのは、2009年度の電撃ガンダム王選手権にて見事1位に選ばれた岩瀬。本作がプロモデラーとしてのデビュー作となる。ガンダム王応募作「GN-XII」でも丁寧に仕上がりが評価されたが、今回も改修箇所とキット部分の差が判別できないほど違和感のない仕上がりになっている。



# 巨神族に



頭は後ハバ施工の後、ディテール等を彫り直してクッキリ彫立させ、引は納まったイメージに。



ヒジ関節のポリキャップ取り付け部の断面が一部見えてしまうのでプラ板で塞いだ。手首はMG「ガンダムVer.Ka」から使用。

## RGM-79Q ジム・クウエル

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット  
「マスターグレード」RGM-79Q ジム・クウエル  
製作・文・右輔



●特に劇場版「機動戦士ガンダム」でも本編中し登場。グリプス内で基地施設の効用にあっている。



↑OVA「機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY」において登場した。ただし置入作業中の機体だった1カットのみ。

### ガンダム TR-1「ヘイズル」

ガンダムへの視覚的効果を極限するために、ティターンズ・テスト・チームに配備された実験機。本体はジム・クウエルがベースとなっている。



## RGM-79Q

### ジム・クウエル

ジム・カスタムをベースに開発された汎用機で、初期ティターンズにおいて暴徒鎮圧などの治安維持任務に就いた。後のガンダム Mk-IIと同じく、ティターンズの地球至上主義的な思想から旧ジオン裔の技術を排斥し、連邦系の技術を手帳に設計されている。



腰のフロントアーマー・サイドアーマーにスジ彫りとディテールを追加、洗練感のある  
スリムとした仕上がりだ。

■スカートアーマーの裏はボリイデで埋め、ディテールを追加した。



REAR VIEW



LEFT SIDE VIEW



FRONT VIEW

# RGM-79Q GM QUEL

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"Master Grade" RGM-79Q GM QUEL  
modeled by Gansuke



## RGM-79Q ジム・クウェル

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット  
"マスターグレード" RGM-79Q ジム・クウェル  
制作・文 岩崎

「ジム・クウェル」はマスターグレードの中でもかなり初期の製品ですが、パーツ数を多過ぎず作り易いキットです。「A・O・Z」登場ということで、足首の形状改修をメインに製作しました。

頭部はフェイスパーツを後ハメできるように、顔のセンサー部を切り離し、塗装後に取り付けます。フェイスパーツを取り付けると、少々きついので、クリアーパーツを磨削しないようにしました。形状は変更せず、ディテール等を直しました。

足首は形が似ているMG「ガンダムVer. Ka」のものをプラ板で3ミリ延長し、つま先の角をも上げてポリバテで全体的にポリニームアップしてあります。アンクルガー

ドはそのままでは付かないので、取り付け部を2ミリ前方に移し、クウェルのガレドを取り付けます。足首を変更したことで、膝もなつてしまった脚部を足首部で1ミリ、モモの部分で2ミリ延長しました。ヒザ関節部も、一部ポリキャップが見えてしまうのでプラ板で塞いであります。

ランドセルの裏の穴は、プラ板で塞ぎました。

武装とシールドは、ほぼストレート組んで、少々ディテールを追加してあります。シールドのポリキャップの露出してしまつた部分は、市販パーツを加工して取り付けてあります。

足首はMG「ガンダムVer. Ka」のパーツを用いて形状変更。それに付いて足首と太ももで3ミリ延長している。従来のキット部分との違和感のなさは、一見して手が入っていると気付かないほど。

### Coloring Data

- 青 85番 インディブルー+色の濃マゼンタ
  - +GX2番 ウィンダーブラック+GX1番 ウールホワイト
  - グレー 14番 キーピングブルー+80番 ユバライトブルー
  - +GX2番 ウィンダーブラック
  - 関節部 GC100番 グレー(24)+GX1番 ウールホワイト+色の濃マゼンタ少量
  - 武器 GC100番 グレー(24)
  - 黄緑色 GC3番 イエロー(1)+GX1番 ウールホワイト
  - 帯 GC2番 レッド(1)
- ※GSIクレオスの「Mr.カラー」および「ガンダムカラー」を使用。



足首はMG「ガンダムVer. Ka」のパーツを用いて形状変更。それに付いて足首と太ももで3ミリ延長している。従来のキット部分との違和感のなさは、一見して手が入っていると気付かないほど。

# 彩を放つ偵察用のザク

元はMSVで設定された機体であり、ザクらしからぬ3連スコープカメラを搭載した頭部デザインがザクバリエーションの中でも異彩を放つ名(迷?)機である。横溝い人気を持つ機体だが、本格的な活躍シーンが描かれるのはこの「A.O.Z.」が初。作例では近年の出来のよいザクキットの一つであるHGUCの「F2ザク」をベースとし、MSVのキットパーツを組み合わせて製作。今風のプロポーションと最新の可動性能を持ったザクフリップパーとして完成させた。



## MS-06E-3 ZAKU FLIPPER

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
MS-06E-3 ZAKU FLIPPER &  
"High Grade Universal Century" MS-06F2 ZAKU II conversion  
modeled by Takumi Konoe

0607-1

# 三つ目が異



最大の特徴であり、デザイン上のポイントとなる各部のカメラは市販の金属パーツとレンズパーツに変更。胴体はパチで形状変更し、F型に近いものとしている。

## MS-06E-3 ザクフリッパー

バンダイ 1/144スケール プラスチックキット  
ザクフリッパー & "ハイグレードユニバーサルセンチュリー"  
MS-06F2 ザクIF2型改造  
制作・文・近衛巧巳

### RMS-119 アイザック

ハイザックをベース機として開発された早期警戒機。頭部には電子探知装置を内蔵したドームを搭載する。遠距離で製造されたものを、後にネオジオン軍が回収し使用している例も見られた。



### MS-06F2 ザク強行偵察型

高性能光学カメラを多数搭載し、情報収集能力と機動性を保ちた偵察用のザクII。戦後はE型と同じく遊撃軍に回収されて、各部隊で運用されている。

### MS-06E-3 ザクフリッパー

ミノフスキー粒子散布下での偵察任務用に一年戦争時にジオン公国軍が開発した偵察用MS。ザク強行偵察型を改良した機体で、ランドセルに改造された複合探知ブームにもなで「フリッパー（水かき）」の愛称が与えられた。本作「A.O.Z」に登場する機体は、戦後に連邦軍に回収され全天候モニターとリアシートに改造されたもの。ディターンズ戦力に組み込まれ、アーネストの同僚であるヒンカビー少尉の乗機となっている。



肩はHGUCCI「ザウエル」のパーツを用い、カスタムユニットは「フリッパー」のパーツと市販パーツの組み合わせにより製作。上腕部は削り込んで鋭角になるように加工している。

削り込みで鋭角く加工した太もも。F2型と異なるスキの形状は削り込みとプラ封の貼り付けで整えた。



MSVキットのバックパックは機能があり過ぎたので極限のモシ、バーニアも市販パーツに変更した。



# ZAKU

"High Grade Universal"

ザクフリッパー & "ハイグレ"

市販の盒パーツとレンズパーツに加工しています。首の部分は市販パーツを使い関節のカバーを製作しました。

胴体はデザインをF型っぽくバチで変更、更にフリッパーの形状にするため、胸部にバーニアを取り付けました。

腕間ブロックのカメラユニットはフリッパーのものを下添にして、胸部同様に加工。

"High Grade Universal Century" MS-06F2 ZAKU II conversion  
modeled by Takumi Konoe

製作・文：近衛巧巳

一つは作ってみたいと思っていたMSの  
一つはサクリッパバー。初めてこの機体  
を見た時は「これザクなの？ この顔なの？」  
というのが感想でしたが、そんな初対面  
から長い時を経て、今ではその顔が一面の  
チャームポイントに見えるまでの面白い  
ものです。さて、今回の工作は基本的に、素  
体であるHGUC「ザクII F」を元にMSV  
キット「ザクリッパ」のパーツに取りま  
す。いわゆるキタリングビッドに付いてま  
すた。そのままだと当然使えるパーツはほと  
と少ないので、各パーツを加工します。  
最初にカメラレンズのパーツを交換。できる  
ように加工。レンズ部分は、黒色とレンズを  
市販の金属パーツとレンズパーツに変更して  
います。蓋の部分は市販パーツを使い隙間の  
カバーを製作して完成。  
胴体は作ってデザインを思いつくパテで変更  
更にフリッパバーの形状にするため、胴部に  
バーニアを取り付けた。  
腕部、フロッグのカメラユニットは「フ  
リッパ」のものも手配しして、頭部  
に追加。

フロトアーミーは左右の部分を一具切り出し、フロトアーミー部へ接合しました。

肩フックはHGCG「ザクII」のものに変更。上腕部は削り込んで四角くなるように加工しています。肩に付くカメラユニットは「フリップパー」のものを切り取り、他の部分と同様に市販パーツの組み合わせで製作。

大腿部は削り込みで四角く加工。スネパーツの形状が違っているので、これも削り込みで素材の貼り付けにて形状を変更しました。

さて、MSVは分かりますが、ジム系はかたじけなく私には、久しぶりのザクということで来しく製作しました。



REAR VIEW

LEFT SIDE VIEW

FRONT VIEW

このえたくみースツアを見た上から定評のある実力派ガンプラモデラー。最近では「スクラッチが楽いのが草履」らしい。最近初めてマイカーを購入。エコーブース真一尺中に20年経った車を買う。熱帯と冷地デザイン、快適さと燃費がどうかが重要です。

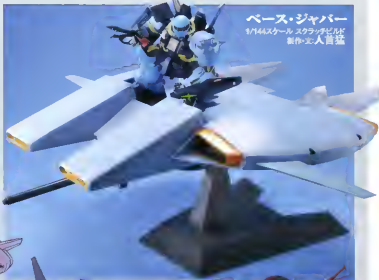
receiving, 39.0%

青 スーパーファインホワイト(フィニッシュマーズ)  
濃紺 スーパーディープブルー(フィニッシュマーズ)  
グレー GX1 香クールホワイト+  
GX2 香・ウィノーブラック少々  
シルバー GX2 香・ウィノーブラックを下地に  
SM01 香・スーパーファインシルバー

※特に表記のあるものを除き、GBクレオスの「Mカラー」を使用。

## MSの立体機動を支える補助兵器S.F.S.

「A・O・Z」本編にたびたび登場する「サブ・フライト・システム(S.F.S.)とは、MSを搭載して飛行する航宙空艇を指す。MSの活動範囲を大幅に拡大する他、立体的な機動を可能とし、「A・O・Z」ではこのS.F.S.を駆使した空中戦の描写も見所の一つとなっている。地上に限らず、宇宙空間でも速やかな前線への展開と、推進剤の消費を抑える目的で活用される。元々「ベース・ジャバー」や「シャクルズ」という呼称は機体固有の名前だったが、慣例的にS.F.S.全般に使用されるようになった。



ベース・ジャバー  
1/144スケール スクランジビルド  
製作: 文人 巨猛

## 地上用SFSベース・ジャバー

「A・O・Z」本編中に登場するMS2体を搭載可能な地上用SFS。熱核ジェット推進式のサブ・フライトで、機体底面にメガ粒子砲を装備する。



## 地上用SFS・タイズ

エーゴおよびカフバで運用された地上用SFS。こちらはゾンの「タイズ」とは異なり、最初からSFSとして設計されている。



地上用SFS・タイズ



## フライングアーマー

ガンダムMr-1が使用するフライングアーマーは大気圏突入用の装備であると同時に、突入後はSFSとして運用できる。



地上用SFS・タイヨ

ソオン公国軍の地上用航空機。元は爆撃機として開発された機体であったが、制空力を活かしてMSを機上に搭載して輸送することができた。



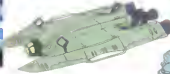
## 宇宙用SFSゲッター

主にティターンズで運用された宇宙用SFS。MS側から機動が可能で、無人でも運用できる。



宇宙用SFSシャクルズ

エーゴによって開発された宇宙用SFS。



## 宇宙用SFSベース・ジャバー

U.C.0090年代に運用された宇宙用のSFS。ベース・ジャバーは地球連邦軍で、シャクルズはネオン・軍事で主に運用された。



宇宙用SFSシャクルズ

機上に爆弾を搭載して出撃するウェイフラウアー形態のRGZ-95/ザル。ゾアの乱の傍、連邦軍では軍用の機体が高さ、素早い可変MS/SFS的運用に生き残りの面を見出すことになった。

# 著者・神野淳二に心境を聞く

新しい「A・O・Z」をスタートさせる。

その企画が上りつから、編集部がまず着手したのが作家の選定だった。複数の作家に打診し、打ち合わせをするところ数ヶ月。

最終的に編集部が適任だと判断したのは、神野淳二だった。二は神野に当時の心境と、連載への意気込みを聞いてみた。

神野さんにとって「A・O・Z」には、  
「何ものですか」。

神野「『Zガンダム』は思春期のころに見ていた作品だから、その外伝というのにはやはり気になるコンテンツでした。『Zガンダム』に対するファスト・リターンって、当時見た人間は、いろんな意味で抱いていた想いなんです。『Zガンダム』の旗のもとに」なんだと思っ

「前作『ティターンズ』の旗のもとには、『Zガンダム』という芸術家系が用いたことも記憶になりました」。

神野「今野敏さんの作品は、私自身軍事小説だけでなく格闘小説であるが、伝記ものを読んでいたの、ティターンズの旗のもとには、それとたいが違わないという感じでした。それと、それが正面なところ。宇宙世紀の物語を書かれていたのが面白かったですね。今までのガンダム作品として当然のことながら、モビルスーツのシーンがあつて敵がいて、というのが主軸でやってくるんですけど、宇宙世紀の地球とコロニーはそれこそ暮らしている人たちがいて、当然いざざがあるわけ。そういう地に足が付いた小説っていうのが非常に面白かったですね」。

ていたんですが、その瞬間どう思われましたか。

神野「僕のようなところの旗の骨とも知らない人間が書いているのか、というのが一番でした。これまでガンダム小説を書かれてきた方というのは、名の通っている作家さんたちじゃないですか。突然決まった後は、もうすごいプレッシャーでしたよね（笑）。4時間ガンダムのことが頭から離れない日々でした。だから相当資料をひ込んで読み漁って、以前の資料と今の資料では、設定の差違などもあったりするの、それらを見直ししたりとか、今まで先人たちが築いてきた「ガンダム」世界の設定というのを忠実に、なるべく変えずにやろうと思っただけで結構強しかったです」。

神野淳二（かみのふみんじ）

1971年生まれ。明治大学SF研出身。2002年、第9回電撃ゲーム小説大賞、読者委員奨励賞を「ソルフィナイト」で受賞。2003年、同大会で作家デビュー。2006年、電撃ホビーマガジンにて「ARMORED CORE: Rebirth」連載開始。以降、2009年までARMORED CORE関連の小説を本誌及びWebで連載。

「神野さんにはそのティターンズの旗の、  
一とは違う「A・O・Z」の小説を書い  
ていただきたい」という依頼を編集部から寄せ



「今回の刻に挑む」者ほどのような作品的なのでしょうか。

神野「『Zガンダム』の時代というの、混沌とした世界ですよね。その「宇宙世紀」というものを描いていきたい。人々がどういった生活をして、どういった希望を抱き、どういった生活に生きてきたか。そしてその中に正義はあったのか、なかったのか。そうしたことを主人公の少年の視点で読者が見ていくとすれば、というように思っています」。

モビルスーツについてのこだわりなどはありますか。  
神野「モビルスーツについては、自分と同じような家系を持っている、お父さんであるユザが簡単に改造して作れるものになってくれるといいな、プラモデル作って、ジオンとかでシン作ってくれたらすごく嬉しいです。僕にとってプラモデルというのは、形としてのモノとかおもちゃではなく、物語に入るための道具なんです。今はケムがすごく発達したりしているの、簡単に物語に入れますが、そうではなく、自分の手で作って形にする、独自の物語が生まれるんですよ。与えられた物語とは別の、だから僕と同じ世代のお父さんや、下の世代の若い人も、自分で作って形を手と目で確認してもらって、物語というものを感得してもらえればなと思います」。

では、読者の方に小説を読んでもらいたいて、そこからインスピレーションを持って、実際にプラモデルでジオンを作りたい。神野「作ってもらえればもう、これに勝る幸せはないですよ」(笑)

キャラクターについてはいかがですか。  
神野「今回はサンライズさんとのコラボでも当然ありますので、若干自分のものと違うキャラクターの要素が入ったことは事実ですが、逆にその点で書く側としてはすごく

面白くなりましたね。こういった経験は初めてだったんです。今まで自分作っていたキャラクターだと、どうしても自分のやりやい展開や言葉になるんですが、やっぱり違う（サンライズから与えられた設定を持つ）キャラクターだと違うやり方が出てきて、それはそれで面白い経験ですよ」。

ガンダム小説には「縛り」があると聞いていますか。

神野「縛り」だとは思っていません。だって、戦記物や時代劇も縛りって思っただけで、曲げることもできない事実という「縛り」はあるんで、僕の中では同じく縛りの話です。やっぱり僕人のものでなく、先人たちが築いてきたものであり、だからそれを不用意に汚したくない。新しいものを作るときは古いものを壊す、とかそういうことには違わないです」。

「ちなみに今回、WEBで小説を掲載する」という、ちょっと特殊な連載形式をとらせていただきました。  
神野「むしろありがたいと思っっています。恐らく今野敏さんが苦しんだであろう、読者の制約があまりないですから。今回「ティターンズの旗のもとに」を読んだんですが、大変だったんだろうなと思います。うわ、このシーンこの行動で書くんだ、とか（笑）。相当苦慮されたんじゃないですか。そういうことは考えたら、僕のはやっぱり格段に難易度は下がるのかな、と思います」。

最後に読者への、意気込みを語っていたわけは。

神野「連載っていうのはマラソンです。ペーシ配分もありましたし、気配が変化するような情勢とか周りのリクエストとかも変わってくると思うので、しなやかに、それについて急切れせず、先走って良いタイムを出したいと思っています」。

## 第五話「強化人間(Cyber Newtype)」より

シアトルで起こった地球連邦政府を批判する市民デモ。

数万人規模に膨れ上がったこのデモの鎮圧に、

ティターンズはハイザック三機を派遣した。

ティターンズの暴虐を阻止するため、

ヴァンは改修されたばかりのジム改、

[ワグテイル]で出動する……。



「ケラウノスから来たヴァン・アシリアインと会います。状況を教えてください」

「サンバル級が三機。敵はテイターンズのハイザックが三機。突然パラシュート降下してきてデモ隊に交戦しやがって。海内では機銃の音が聞こえたんだが……」

「アッガイのバイロッドは集った様子で答えた。周囲に人影はない。デモ隊や市民の避難が完了していたのならばMSが出てきた意味はある。だが貴重なMSが撃たれてはユー・コン級潜水艦艦隊の手助けに支障を来す。バイロッド自身も無事で済まなくては」

「味方は？」

「機はやられたが、まだ隣のブロックにズゴックがいる」

隣のブロックを確認すると、ズゴックが破壊した建物の隙で様子を探っていた。ズゴックは足を吹き飛ばされており、戦闘力が半減していた。

ああ、ケラウノスから助っ人が来るとは縁だ。ズゴックのバイロッドが喜びを押し殺したように思えた。

「記憶は忘れてしまった」

ヴァンがテイターンズから退けた時、MS隊に囲まれたケラウノスはユー・コン級潜水艦艦隊のMSに救われ、修理用ドックまで用意して貰った。彼は返した。

レーダー上の敵を示す一つの光点が動いた。こちらが機銃射撃として、建物を狙っている。

ヴァンはMSの頭上に向けてダミーバルーンを射出。ダミーバルーンは砲火のみにあらず上昇し、ビルの高さを越えた。すると光の帯が

走り、ダミーバルーンが破裂した。MSからの狙撃だ。火力が向かっているが、近距離には射けない。次にヴァンは建物の角に移動して接近中のMSに見えようとして、ダミーバルーンを射出する。すると撃たれず、今度はマシンガンで攻撃された。

「かなり近づくまで来ますね」  
「そうはとうだい？」  
ルシアン隊員から無線が入った。確認する

とジム・キャンノIIはズゴックの目の前にフォロイーに入っている。  
「ハイザックが二機、こっちに来てます。でも何とかならと思います」

「へえ。何か手があるかい？」

ルシアン隊員が安心したような声を上げた。  
「まだダミーバルーンが二機残っています」

次は連続でバルーンを射出して、それが離れた時点で復が前に出ます。マシンガンで撃たれたら一度はシールドで耐えられますが、ルシアン隊長、振返して下さい。アッガイは機銃と急凍して下さい」

「ふかった。その手を操縦することにするよ」  
ルシアンは落ち着いたような声で答えたが、顔はそうでもなかった。

「いつもの指示に従った方が良さそうだな。隣のブロックに」  
「隣のブロックに」  
「隣のブロックに」

「ハイザックが前に出てきて射撃に入ったらアッガイと一緒に狙撃して下さい」  
「回になる筈だな」

アッガイのバイロッドが声を上げた。  
「敵が機銃の音をダミーバルーンだと一瞬で

「聞いてくれないなら、そうならいい。でも大丈夫です。皆さんのフォロイーがいます」

そう言っている間に二機のハイザックを示す光点は一つ先のブロックで動きを止めた。それと、機銃射撃を待つの。市街地を歩

隊員を射入れると単独で行動しているMS部隊、建物の中から基地に海軍艦隊でわたれたらMSは逃げようがない。これは決する時だ。ジム・キャンノIIはアッガイが、シールドを待機し、準備が整った。

「行きます」

ヴァンは一目を奪われて、ルシアンを射出。それと同時に建物の角から機銃が

# 電撃ホビーマガジン5月号付録 1/144[ワグテイル]の全容

電撃ホビーマガジン恒例のプラモデル付録。ここでは最終状態に近いテストショットと、そのランナーと組み上げた状態のものを掲載する。

GM TYPE C

## ジム改[ワグテイル] RGM-79C GM TYPE C [WAGTAIL]

2011年3月25日発売の電撃ホビーマガジン5月号には、プラモデル付録がついた。その付録で立体再現されたのは、主人公ガン・アシャリンが搭乗する機体、ジム改(ワグテイル)だ。機体の前肢についてはP20を参照してもらうとして、ここでは付録のテストショットをご覧いただきたい。

「ワグテイル」を再現するには、バンダイの「HGUCジム改」が必要となる。そう、今回の付録は、改造パーツだということだ。「ワグテイル」の特徴的な頭部、肩部、腕部をはじめ、形状の異なる部分は全て交換なく改造パーツに置き換えられる。また、専用式

梁のビーム・ライフルにシールドも全く手抜きなく再現されている。

プロポーションは、設定画よりも凹凸が大きくメリハリのついたもので、立体としての見栄えを優先したバランスとなった。

次ページではこの「ワグテイル」を、塗装された完成状態でも見せしよう。



FRONT VIEW

RGM-79C

# 刻に抗いし者

ときにあらがひしもの

ADVANCE OF Z

## ジム改[ワグテイル] コンバージョンパーツ

RGM-79C GM TYPE C [WAGTAIL]  
conversion parts



REAR VIEW



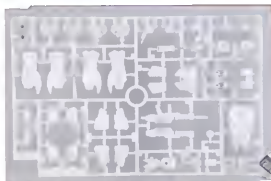
▶「HGUCジム改」(右)と並べてみると、頭とAとの外装パーツが新規だと分かる。また、設定に合わせスネ部を延長、ノーマルより身長が高くなっている。



▶頭部は新規パーツで構成される。しかしバイサーは「HGUCジム改」のものを流用するため、内装のメカモールドがしっかりと見える。



ワグテイル両腕のためには、肘部パーツだけではなく、「HGUCジム改」(発売予定) 定価1,260円(税込)が必要となる。



▶フッター状態、制動するときに、よりリアルなポーズが実現されている。当然ながらスナノブフィード、ストレスなく「HGUCジム改」に組み込める。



▶「HGUCジム改」の関節をそのまま使用するので、アクションポーズも思いのまま。

# ジム改[ワグテイル] 完成見本公開!!

前ページで紹介した、HGUC「ジム改」に組み込むことで完成する「ワグテイル」。ここではプロモデラー、松本尚文による完成見本をご覧に入れよう。各部の塗り分けがどうなっているのか、マスキングの順番はどうするのか、この作例写真を見て塗装の参考にしてほしい!

## RGM-79C GM TYPE C [WAGTAIL]

modeled by Naofumi Matsumoto



主頭部とサカサの塗りはカメウとなっている。メインカメラのクリアパーツと通孔が合わないよう、グリーン色の端に注意を払いたい。

# 刻に挑戦者

ADVANCE OF Z

電撃ホビーマガジン2011年10月号付録「ジム改[ワグテイル]」の組み上げることに關してはHGUCクオリティなので、ガンブラを作り慣れている人ならまず問題はないだろう。だが、モデルの腕が試されるのが塗装だ。ただパーツを切り出してストレートに組んだだけでは、色の塗り分けは再現されない。メカデザインを担当した岡田リョウタのこだわりのカラーリングは、使用している色数は多くないものの、クラフィカルなセンスが全面に出され、立体で再現するとマスキングは必須。まずは掲載作例をじっくり観たい。塗装の手順をイメージトレーニングしてもらいたい。



RGM-79C ジム改[ワグテイル]  
製作 松本尚文



●脚部の青白グナーンは、肩やバックパックに比べればマスキングはいくぶん楽だろう。ただしスラスター内装の塗装は腕の見せどころだ。



●塗装はセーム・ライバルとシールドが付属。セームライバルのセンサーは可動する。



●外側のスラスター内部は中央のフィンと前面が黄色となる。マスキングが難しいようなら、薄で丁寧に塗り分けよう。



●バックパックの塗り分けも肩アーマーなどと同様。窓によるツートーン構成だ。また天板も単色ではなく、丁寧な塗装作業を心がけよう。

白 GX1・クールホワイト+50番・黄緑色+50番・グリーン+GX2・ウイノーブラック  
青 80番・コバルトブルー+67番・パープル+3番・レッド+GX1・クールホワイト+GX2・ウイノーブラック  
黄 58番・黄緑色+50番・オレンジ+GX1・クールホワイト+GX2・ウイノーブラック  
赤 68番・モンザレッド+GX1・クールホワイト+GX2・ウイノーブラック  
灰(フレーム) サーフェイス+33番・ウヤ洲シブラック+80番・コバルトブルー+6番・グリーン  
灰(武庫) CG100・グレー(24)  
濃灰 71番・ミッドナイトブルー+67番・パープル+3番・レッド+GX1・クールホワイト+GX2・ウイノーブラック

※全てGSIクレオスの「Mr.カラー」および「ガンダムカラー」を使用。



REAR VIEW



LEFT SIDE VIEW



FRONT VIEW



CG製作: RED CRAB

原案製作: 空山竜司(ジム改「ワグテイル」)

撮影: エルクラフト

機体ごと発火させられないで済んだ。それと同時に関は味方のヘース・ジャバを襲った。ベース・ジャバは煙の中に松葉障子「ついていなかった」。

「ランター二大尉に何かあったのだろうか?」  
またか、それを確かめる余裕はない。

「それからジムの光線が降り注ぎ、ヴァン(ワグテイル)にバックステップと小さな円運動を迫せながら、回避した。

「ヴァンが上空を見つめると機体のMSはちやうど大の字にいた。太陽にはコマ数秒でフルターンがかかるが、全大周二ターの中で、その足が生じ、やりにくい。このことを少しが本筋は忠実なパイロットだと分かった。さうしてヴァンよりも速かに縮がある。

「ワグテイル」もまた数回MSに対し、火撃を放ち対抗できそうにない。悲しいことだが、ジム改をベースにしている「ワグテイル」こそ、むしろハイザックをベースにして、るであろう数のMSとでは、出発点からして差がある。開発予算も大きく違うだろう。向こうはワゴフのガスタム機でこっちは量産前提のは作パイプを適用したに過ぎないのだ。

それでもヴァンは諦める訳にはいかない。ヴァンはやむを得ず太陽光発電パネルの列に向かつて走り、異形のMSのヒム・ライフルから撃たれた。太陽光発電パネルは村だけでなく、ドクの軍力も勝つため、MSくらいは簡単に倒してしまふほど巨大だったが、彼女には場所がかかるのか、発電パネル越しに「ワグテイル」を狙い撃ちした。異形のMSが本筋では、ライフルは厚い発電パネルを簡単に貫き、ヴァンを追いつめつつあった。

「向かい手を考えないと」

# 刻に抗いし者<sup>とくしものしや</sup>

ADVANCE OF Z  
ビジュアルブック Vol. 1

## STAFF

編集 村田修亮 小俣龍也  
デザイン/DTF BEE-PEE  
撮影 株式会社エルタワト  
CG製作 RED CRAB  
協力 株式会社サンライズ  
株式会社パブリックビー事業部  
ストーリー 神野淳一  
監案 矢立 肇・宮野山悠季  
キャラクターデザイン 中島利洋  
メカニックデザイン 龜岡建貴・片貝 文洋・河川 Joウケ  
原案製作 呂榎・近藤巧也・空山竜司・takayoshi 八音 猛

発行 2011年3月25日初版発行

発行所 高野 謙

発行所 株式会社アスキー・メディアワークス  
〒100-8326 東京都新宿区西新宿4-3-47  
電話 03-6866-7343(編集部)

発売元 株式会社角川グループパブリッシング  
〒103-8177 東京都千代田区富士見2-13-3  
電話 03-3338-8905(営業)

印刷製本 凸版印刷株式会社

© 創通・サンライズ  
© 2011 ASCII MEDIA WORKS

本書は、法令の定めのある場合を除き、複製・複写することはできません。  
盗下・盗丁本は厳正に取り扱いたします。  
購入された書店名を明記して、株式会社アスキー・メディアワークス生業管理組までご連絡ください。  
送料小社負担にてお取り替えいたします。  
但し、古書店で本書を購入されている場合はお取り替えできません。

Printed in Japan

定価は表紙に表示してあります。

ISBN978-4-04-870457-1 C0076

### 【 アンケートご協力をお願い 】

本書をお読みになってどんな感想をお持ちになりましたか? アンケートにご協力ください。以下のURLまたは右のQRコード(携帯カメラ用)で、小社アンケートページにアクセスできます。アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で年1回100名の方に記念品を差し上げます。なお、当編書の発表は記念品の発送をもって代えさせていただきます。

<https://ssl.asciiimw.jp/dengeki/cgi-bin/hobbybooks/index.html>

※ご記入いただいたお客様の個人情報は、記念品の発送に利用するほか、当社グループ各社の商品サービスののご案内などに利用させていただきます場合がございます。また、個人情報保護法に準拠しない形で統計処理をした上で、当社グループ各社の商品企画やサービスの向上に役立てるほか、第三者に提供することがあります。



電撃ホビー関連情報をいち早くお届け!  
<http://hobby.dengeki.com/>